

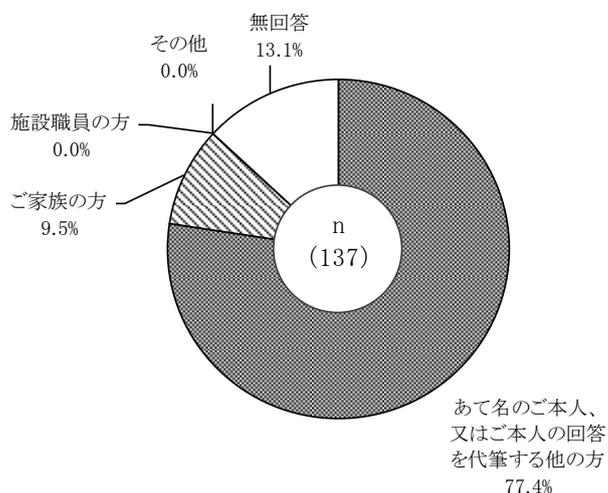
4 発達障害のある方を対象とした調査

4 発達障害のある方を対象とした調査

(1) 回答者について

問1 この調査票でご回答いただくのはどなたですか。(〇は1つ)

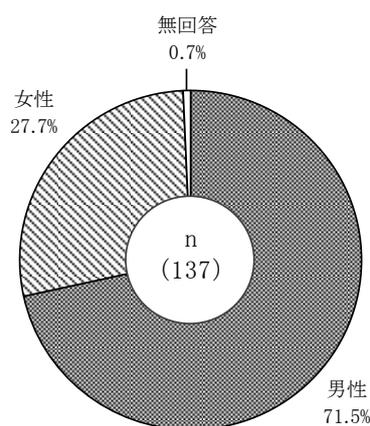
「あて名のご本人、又はご本人の回答を代筆する他の方」の割合が77.4%と最も高くなっています。



(2) 本人について

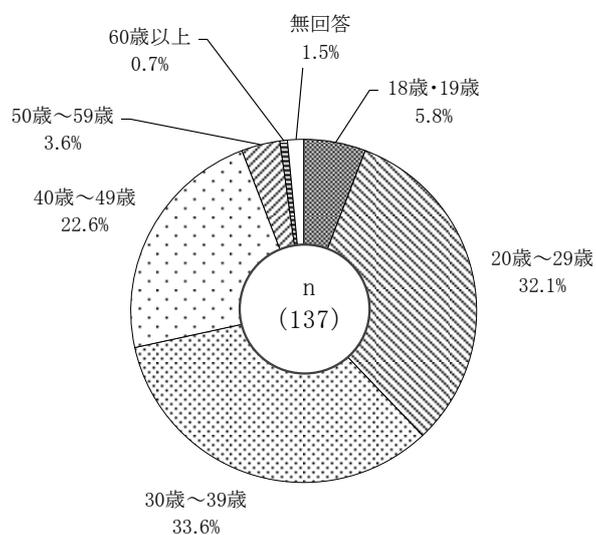
問2 あなたの性別をおたずねします。(〇は1つ)

「男性」の割合が71.5%、「女性」の割合が27.7%となっています。



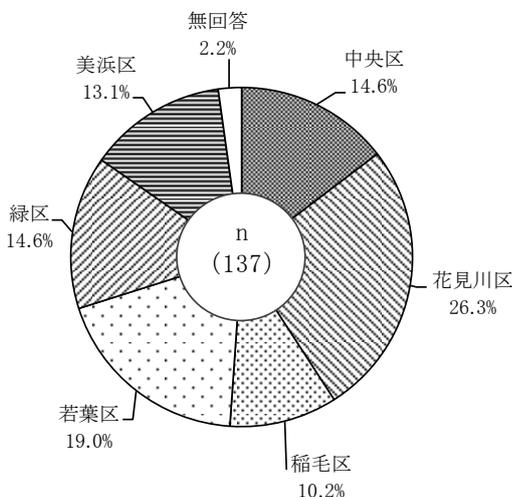
問3 あなたの年齢について、令和元年10月1日現在の年齢をご記入ください。

「30歳～39歳」の割合が33.6%と最も高く、次いで「20歳～29歳」の割合が32.1%、「40歳～49歳」の割合が22.6%となっています。



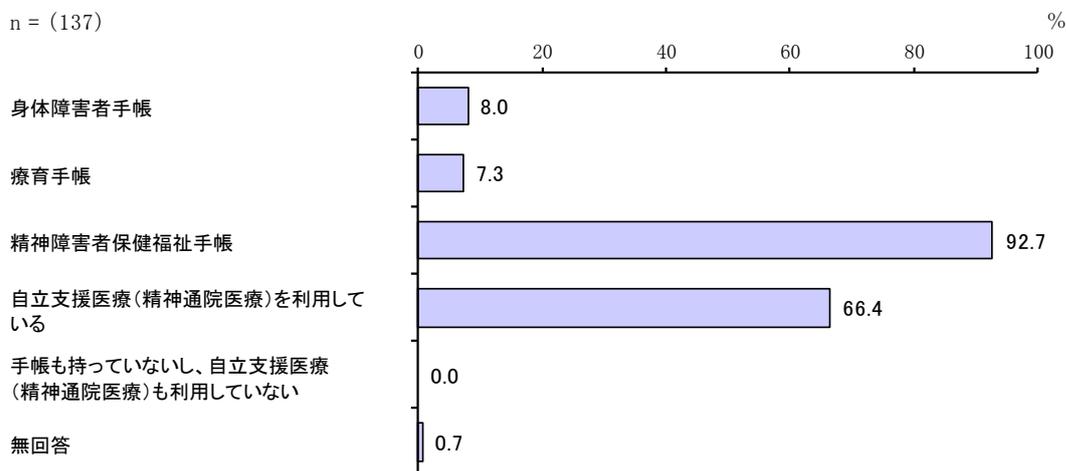
問4 あなたのお住まいの区をおたずねします。(〇は1つ)

「花見川区」の割合が26.3%と最も高く、次いで「若葉区」の割合が19.0%、「中央区」、「緑区」の割合が14.6%となっています。



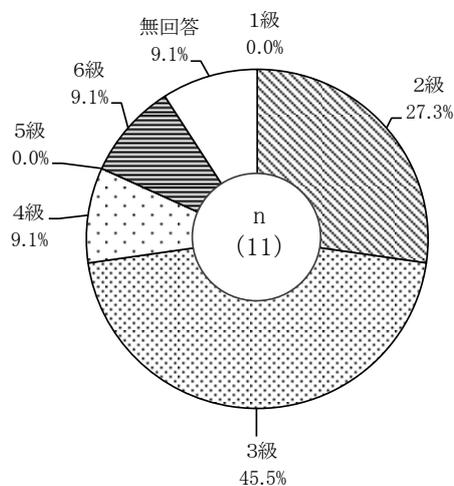
問5 あなたがお持ちの手帳の種類と等級、自立支援医療（精神通院医療）の利用をおたずねします。(〇はいくつでも。)

「精神障害者保健福祉手帳」の割合が92.7%と最も高く、次いで「自立支援医療（精神通院医療）を利用している」の割合が66.4%となっています。



1. 身体障害者手帳の等級

「3級」の割合が45.5%と最も高く、次いで「2級」の割合が27.3%となっています。

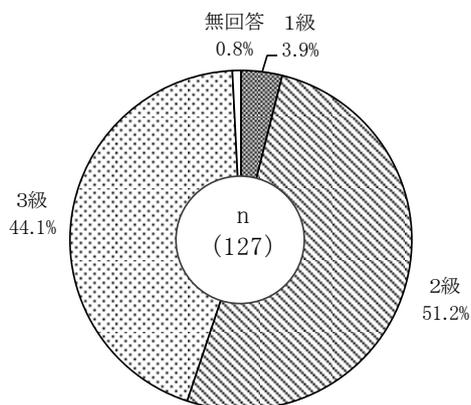


2. 療育手帳の程度

「Bの2」の割合が8件と最も高く、次いで「Bの1」が1件となっています。

3. 精神障害者保健福祉手帳の等級

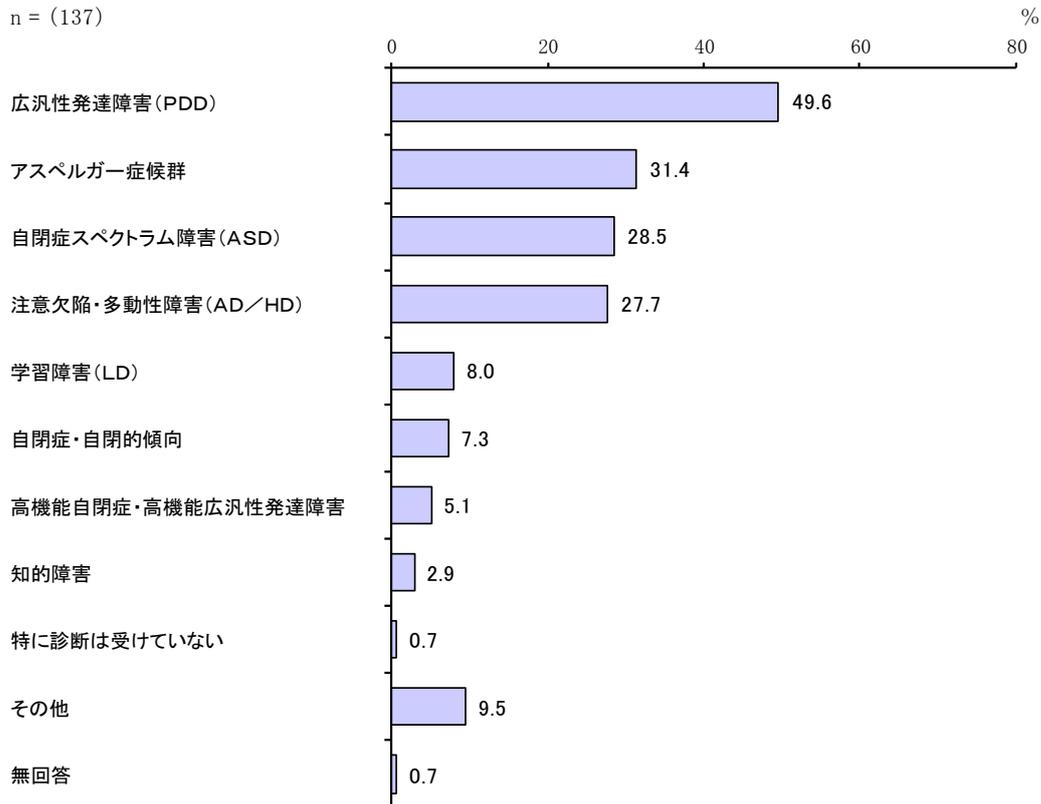
「2級」の割合が51.2%と最も高く、次いで「3級」の割合が44.1%となっています。



問6 あなたが受けている最新の診断名をお聞きます。(〇はいくつでも)

「広汎性発達障害 (PDD)」の割合が 49.6%と最も高く、次いで「アスペルガー症候群」の割合が 31.4%、「自閉症スペクトラム障害 (ASD)」の割合が 28.5%となっています。

平成 28 年度調査と比較すると、「自閉症スペクトラム障害 (ASD)」、「注意欠陥・多動性障害 (AD/HD)」の割合が増加し、「アスペルガー症候群」、「高機能自閉症・高機能広汎性発達障害」、「知的障害」の割合が減少しています。



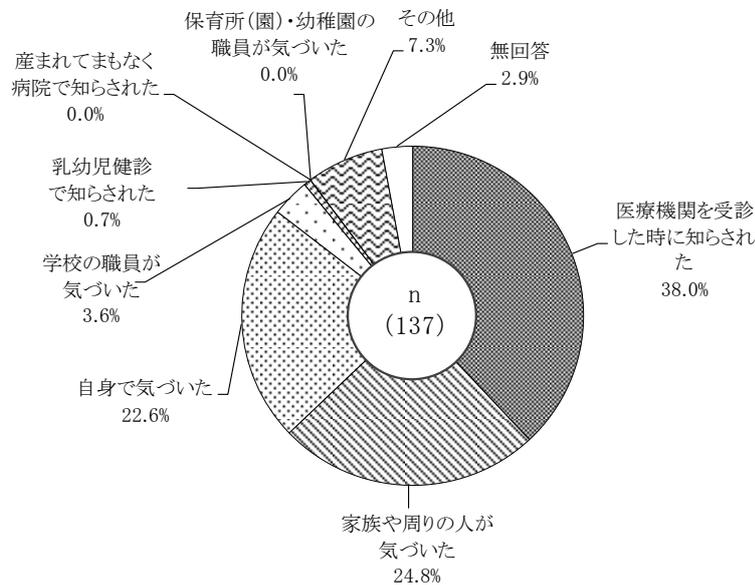
【平成 28 年度調査】

単位: %

調査数	広汎性発達障害 (PDD)	アスペルガー症候群	自閉症スペクトラム障害 (ASD)	注意欠陥・多動性障害 (AD/HD)	学習障害 (LD)	自閉症・自閉的傾向	高機能自閉症・高機能広汎性発達障害	知的障害	特に診断は受けていない	その他	
全体	120	46.7	40.0	13.3	9.2	5.8	9.2	11.7	10.0	0.8	9.2

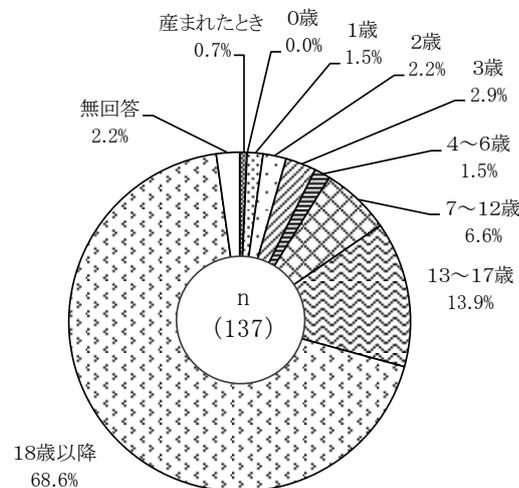
問7 あなたが診断名の障害に気づいたきっかけは何ですか。(〇は1つ)

「医療機関を受診した時に知らされた」の割合が38.0%と最も高く、次いで「家族や周りの人が気づいた」の割合が24.8%、「自身で気づいた」の割合が22.6%となっています。



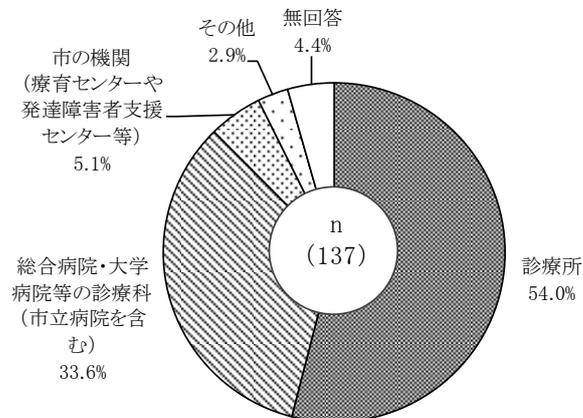
問8 あなたが診断名の障害に気づいたのはいつですか。(〇は1つ)

「18歳以降」の割合が68.6%と最も高く、次いで「13～17歳」の割合が13.9%となっています。



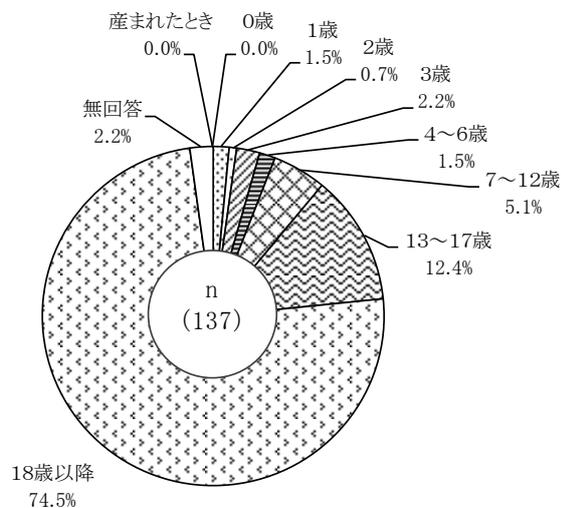
問9 あなたが診断・判定を受けた機関はどこですか。(〇は1つ)

「診療所」の割合が54.0%と最も高く、次いで「総合病院・大学病院等の診療科（市立病院を含む）」の割合が33.6%となっています。



問10 あなたが、診断・判定を受けたのは何歳の時ですか。

「18歳以降」の割合が74.5%と最も高く、次いで「13～17歳」の割合が12.4%となっています。



問11 難病に罹患している方におたずねします。あなたの難病の種類は何ですか。

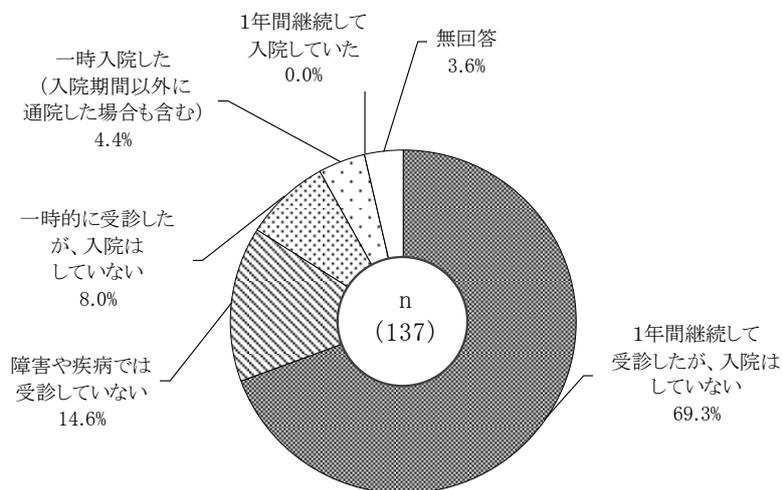
国が指定する特定疾患

- ・下垂体性 PRL 分泌亢進症（1 件）
- ・悪性関節リウマチ（1 件）

(3) 医療機関への受診状況について

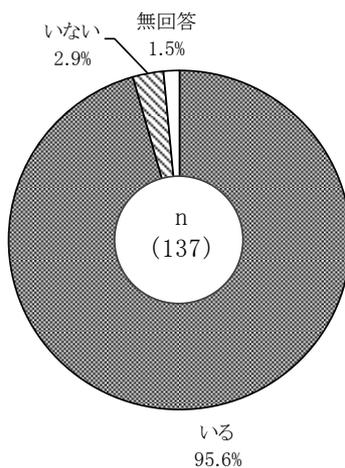
問 12 あなたは最近 1 年間に、障害や疾病が原因で医療機関を受診しましたか。
(○は 1 つ)

「1 年間継続して受診したが、入院はしていない」の割合が 69.3%と最も高く、次いで「障害や疾病では受診していない」の割合が 14.6%となっています。



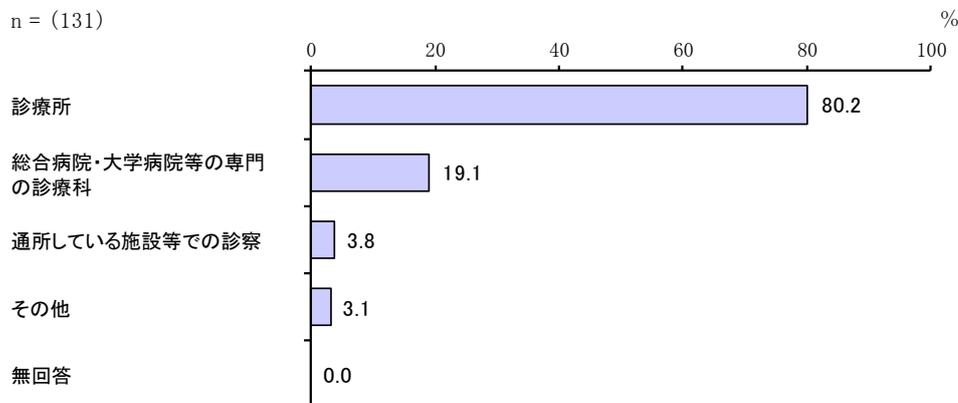
問 13 あなたは障害や疾病について、相談や治療をしてくれる身近な医師等 (かかりつけ医) はいいますか。(○は 1 つ)

「いる」の割合が 95.6%、「いない」の割合が 2.9%となっています。



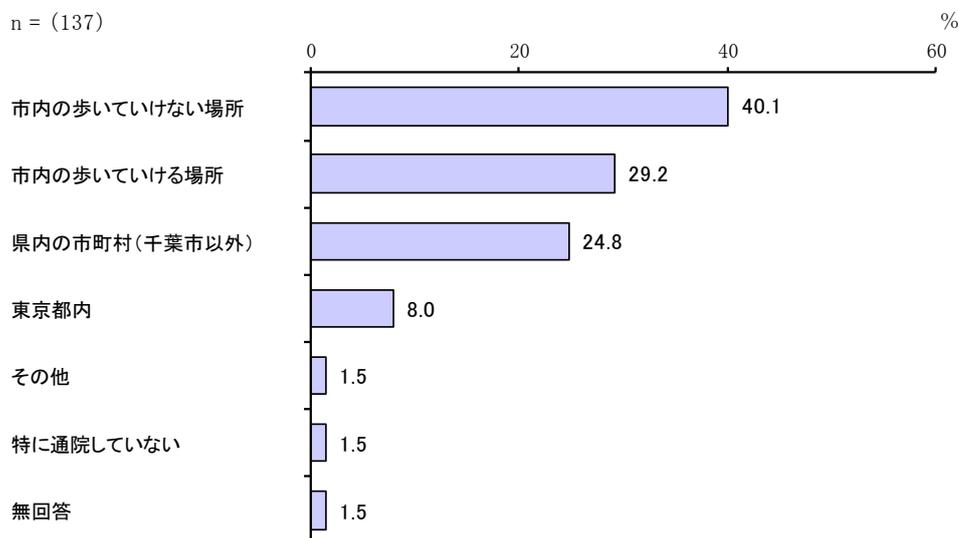
**問 14 【問 13 で身近な医師等（かかりつけ医）がいると回答した方におたずねします。】
その医療機関はどのようなものですか。（〇はいくつでも）**

「診療所」の割合が 80.2%と最も高く、次いで「総合病院・大学病院等の専門の診療科」の割合が 19.1%となっています。



問 15 あなたの「医療」についておたずねします。あなたはどこにある病院や診療所に通院していますか。（〇はいくつでも）

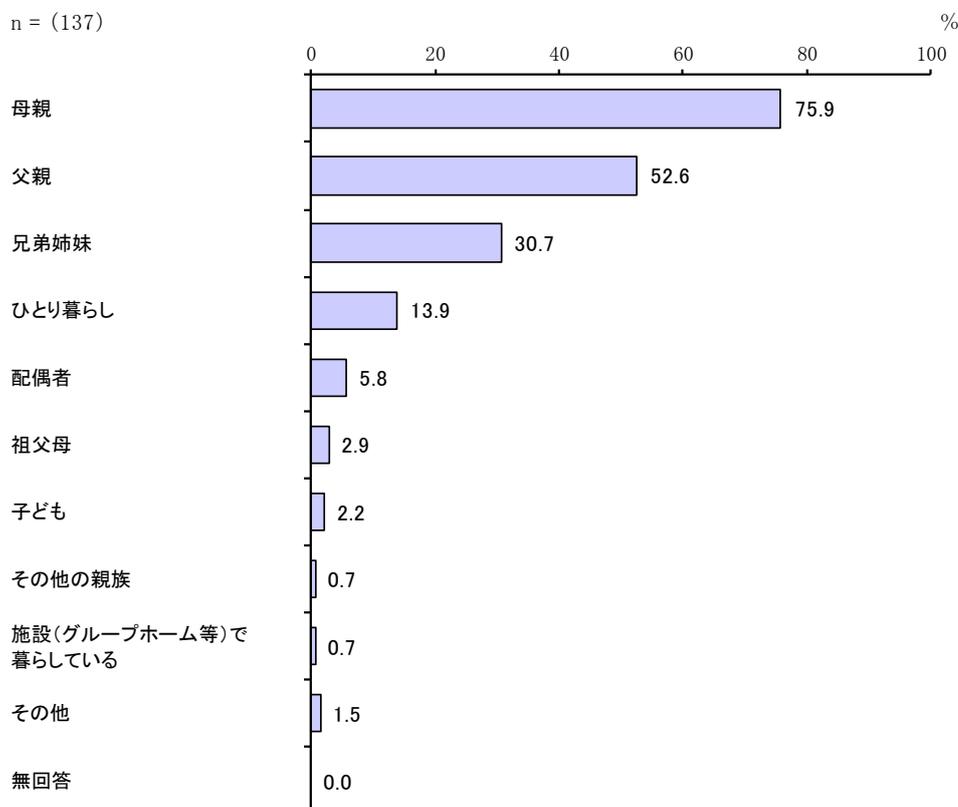
「市内の歩いていけない場所」の割合が 40.1%と最も高く、次いで「市内の歩いていける場所」の割合が 29.2%、「県内の市町村（千葉市以外）」の割合が 24.8%となっています。



(4) 家族や介助者について

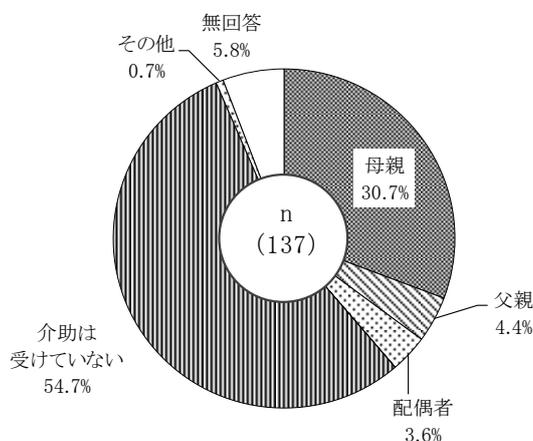
問 16 あなたは、どなたと一緒に暮らしていますか。(〇はいくつでも)

「母親」の割合が75.9%と最も高く、次いで「父親」の割合が52.6%、「兄弟姉妹」の割合が30.7%となっています。



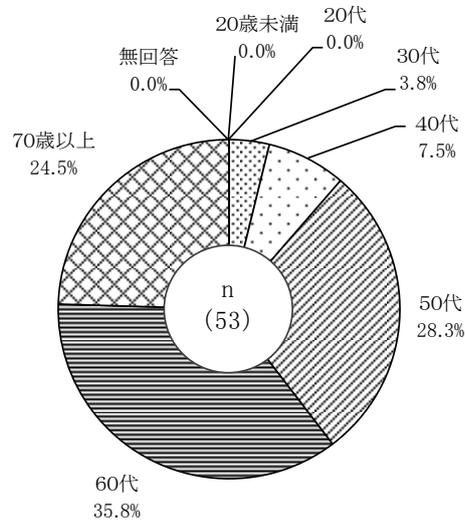
問 17 あなたへの介助について、主な介助者はどなたですか。(〇は1つ)

「介助は受けていない」の割合が54.7%と最も高く、次いで「母親」の割合が30.7%となっています。



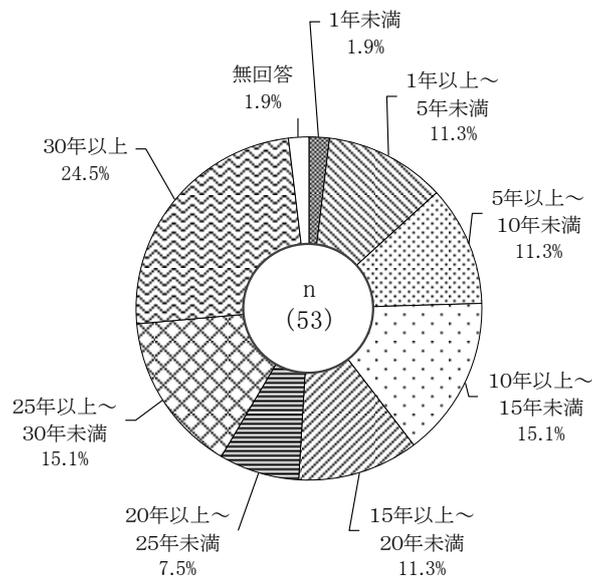
問 18 【問 17 で主な介助者が家族・親族に○をつけた方におたずねします。】
主な介助者の方の年齢をお答えください。(○は1つ)

「60代」の割合が35.8%と最も高く、次いで「50代」の割合が28.3%、「70歳以上」の割合が24.5%となっています。



問 19 【問 17 で主な介助者が家族・親族に○をつけた方におたずねします。】
主な介助者の介助継続年数をお答えください。(○は1つ)

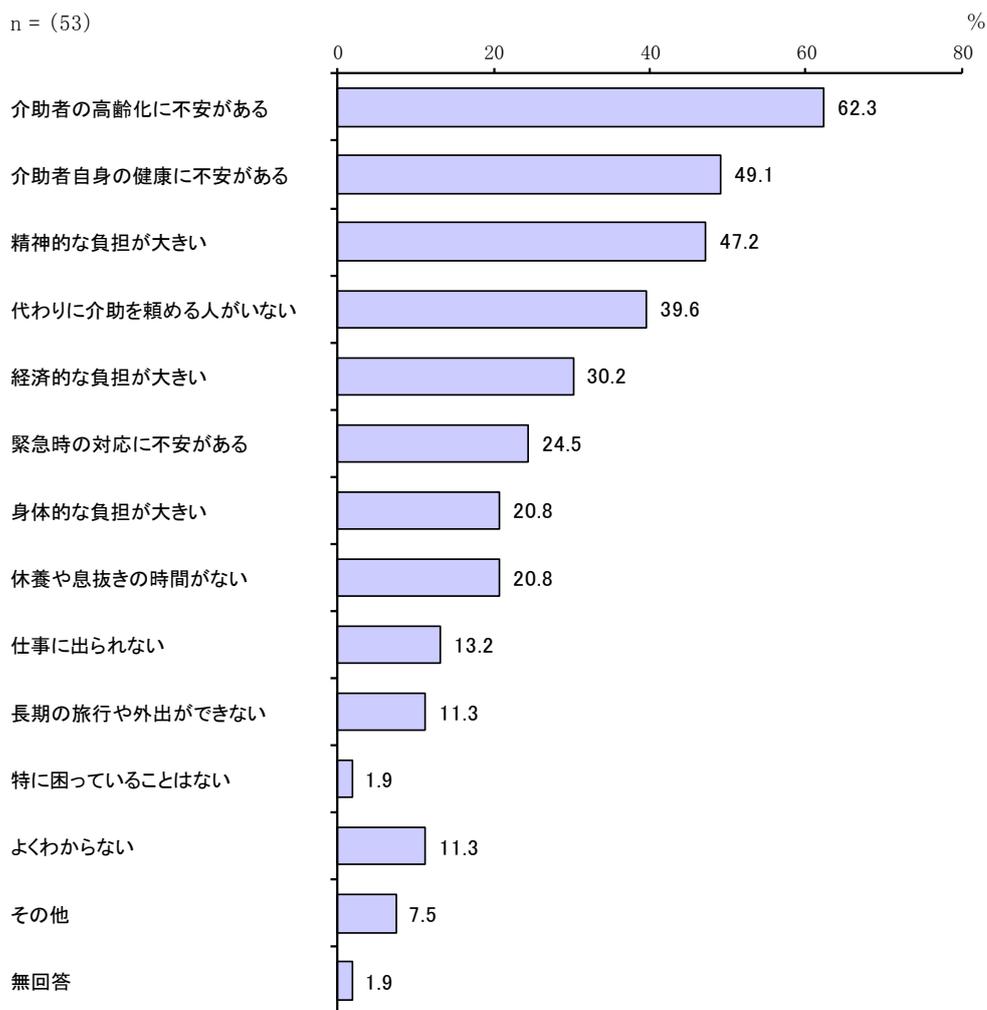
「30年以上」の割合が24.5%と最も高く、次いで「10年以上～15年未満」、「25年以上～30年未満」の割合が15.1%となっています。



問 20 【問 17 で主な介助者が家族・親族に○をつけた方におたずねします。】
 主な介助者が困っていることは何ですか。(○はいくつでも)

「介助者の高齢化に不安がある」の割合が 62.3%と最も高く、次いで「介助者自身の健康に不安がある」の割合が 49.1%、「精神的な負担が大きい」の割合が 47.2%となっています。

平成 28 年度調査と比較すると、「介助者の高齢化に不安がある」、「介助者自身の健康に不安がある」、「仕事に出られない」の割合が増加し、「代わりに介助を頼める人がいない」、「長期の旅行や外出ができない」、「特に困っていることはない」の割合が減少しています。



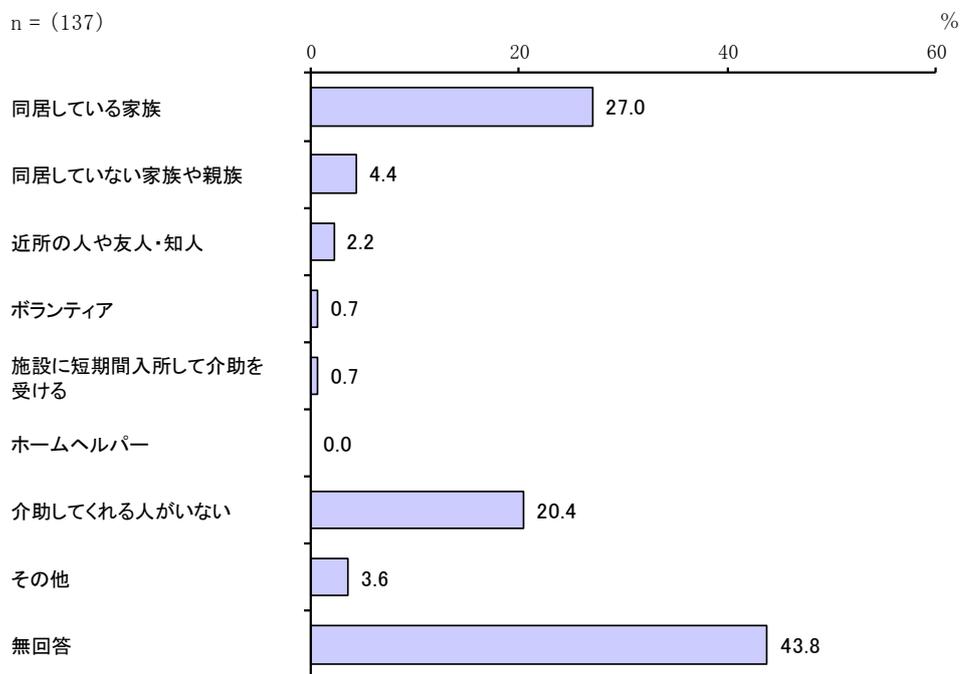
【平成 28 年度調査】

単位: %

	調査数	介助者の高齢化に不安がある	介助者自身の健康に不安がある	精神的な負担が大きい	代わりに介助を頼める人がいない	経済的な負担が大きい	緊急時の対応に不安がある	身体的な負担が大きい	休養や息抜きの時間がない	仕事に出られない	長期の旅行や外出ができない	特に困っていることはない	よくわからない	その他
全体	120	44.4	38.9	48.1	46.3	27.8	27.8	16.7	18.5	7.4	27.8	7.4	3.7	5.6

問 21 主な介助者が、病気のときや外出をしなければならないときなどは、代わりにどなたが介助していますか。(〇は3つまで)

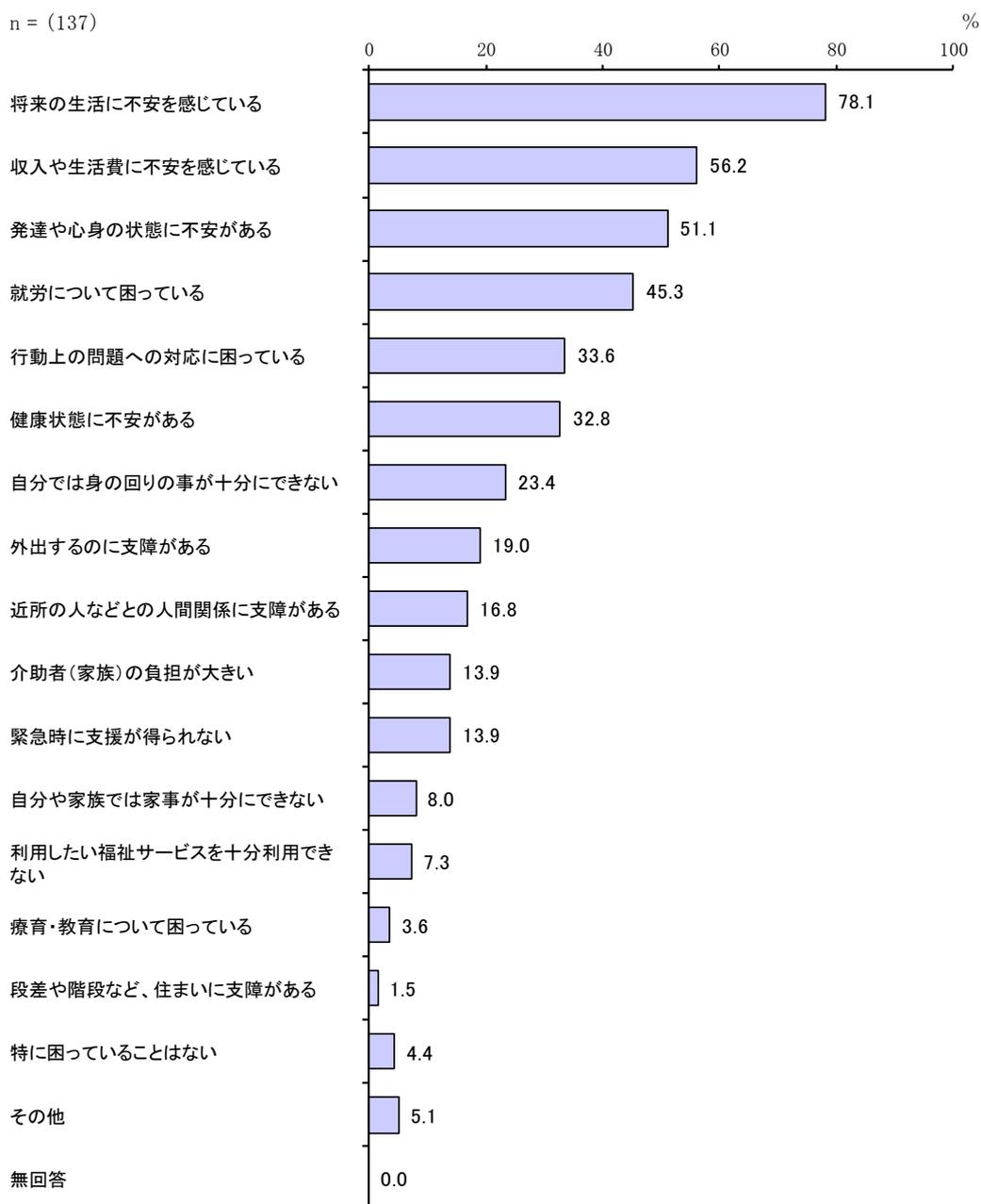
「同居している家族」の割合が 27.0%と最も高く、次いで「介助してくれる人がいない」の割合が 20.4%となっています。



(5) 相談や情報入手について

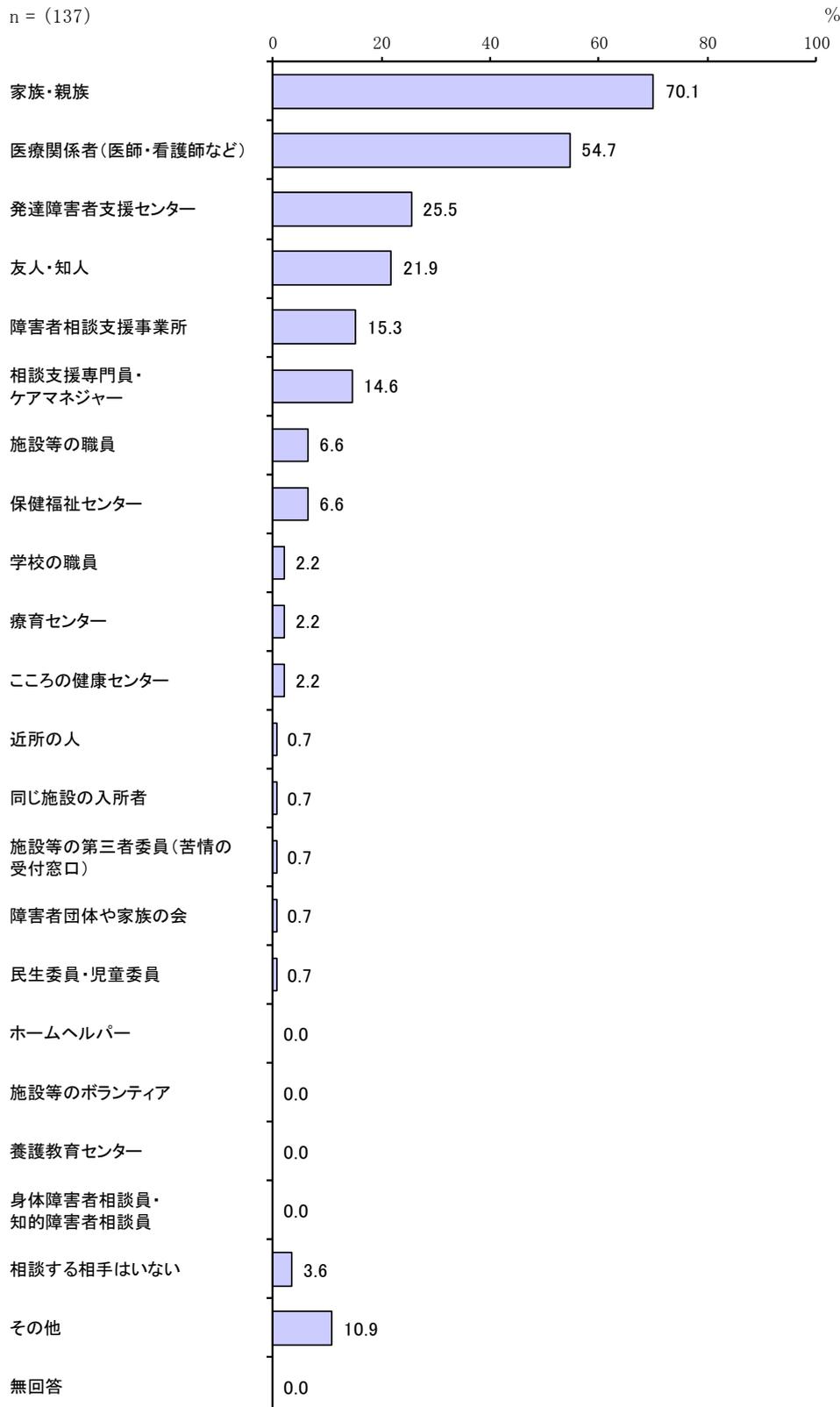
問 22 あなた（やご家族の方）は、日常生活で困っていることはありますか。
 （○はいくつでも）

「将来の生活に不安を感じている」の割合が78.1%と最も高く、次いで「収入や生活費に不安を感じている」の割合が56.2%、「発達や心身の状態に不安がある」の割合が51.1%となっています。



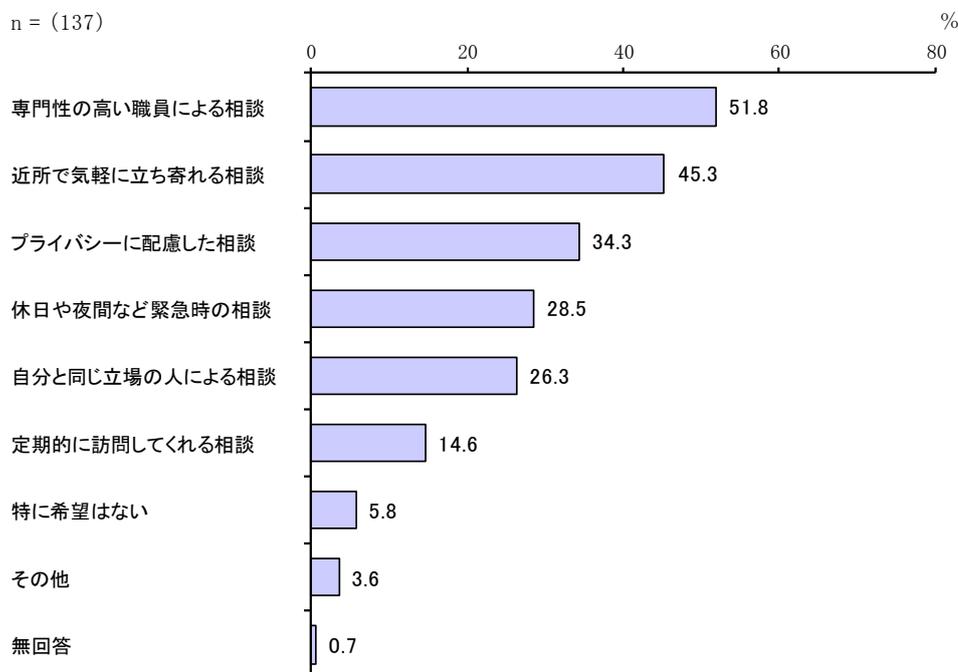
問 23 あなた（やご家族の方）が困った時に相談する相手は誰（どこ）ですか。
（〇はいくつでも）

「家族・親族」の割合が70.1%と最も高く、次いで「医療関係者（医師・看護師など）」の割合が54.7%、「発達障害者支援センター」の割合が25.5%となっています。



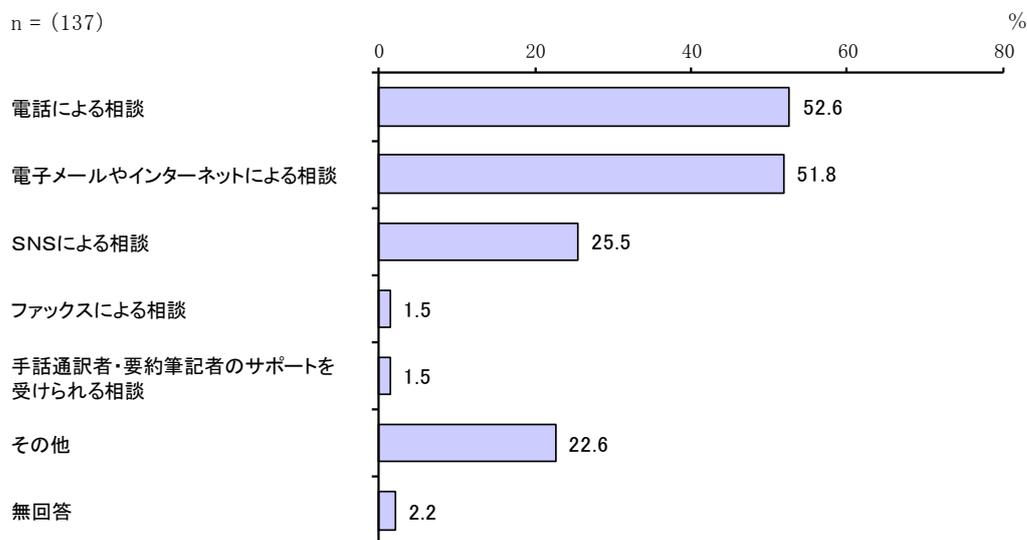
問 24 あなた（やご家族の方）は、どのような相談制度があれば、より便利だと思いますか。（〇はいくつでも）

「専門性の高い職員による相談」の割合が51.8%と最も高く、次いで「近所で気軽に立ち寄れる相談」の割合が45.3%、「プライバシーに配慮した相談」の割合が34.3%となっています。



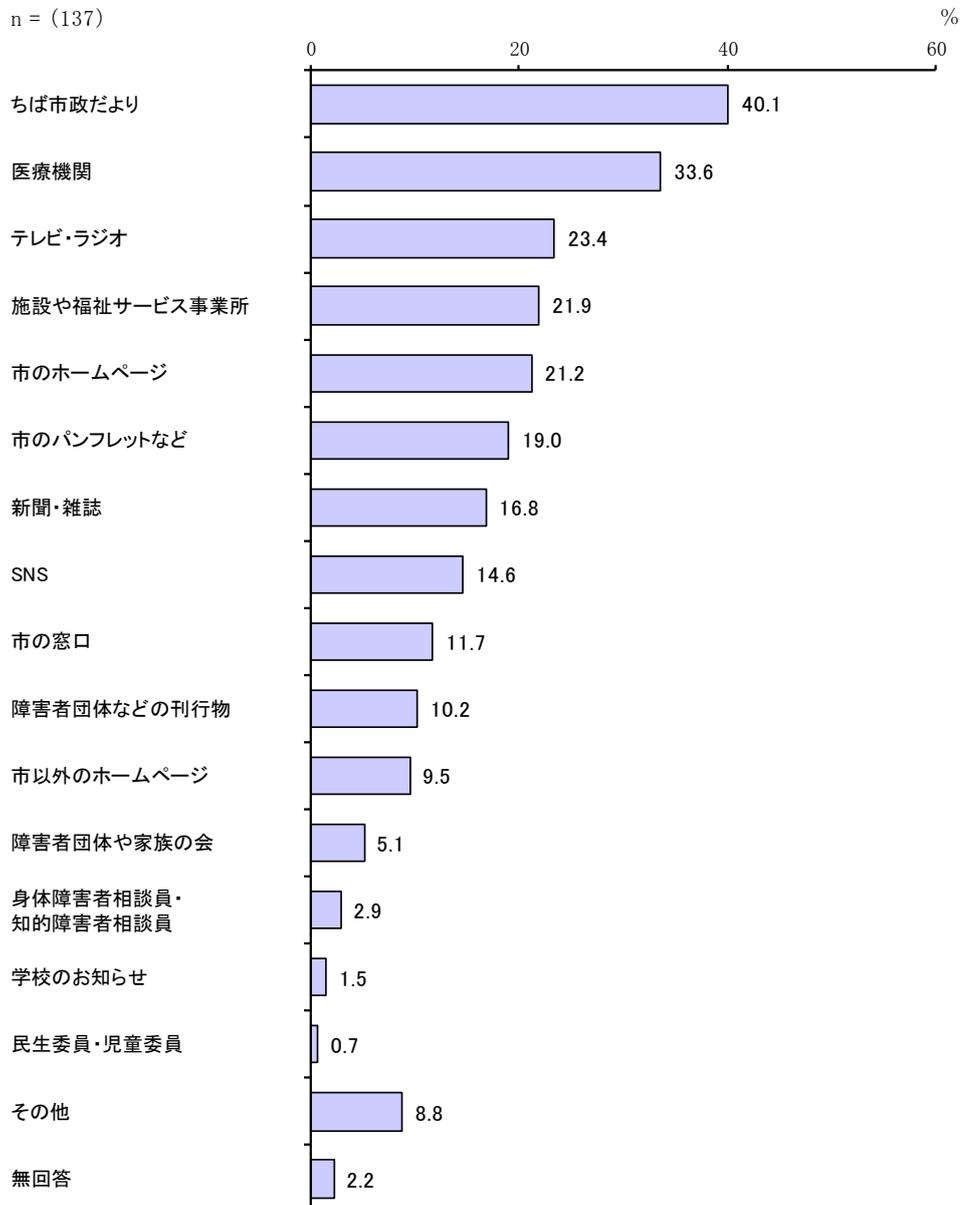
問 25 あなた（やご家族の方）は、どのような相談方法が相談しやすいですか。（〇はいくつでも）

「電話による相談」の割合が52.6%と最も高く、次いで「電子メールやインターネットによる相談」の割合が51.8%、「SNSによる相談」の割合が25.5%となっています。



問 26 あなた（やご家族の方）は、福祉に関する情報を、どこから知ることが多いですか。（〇はいくつでも）

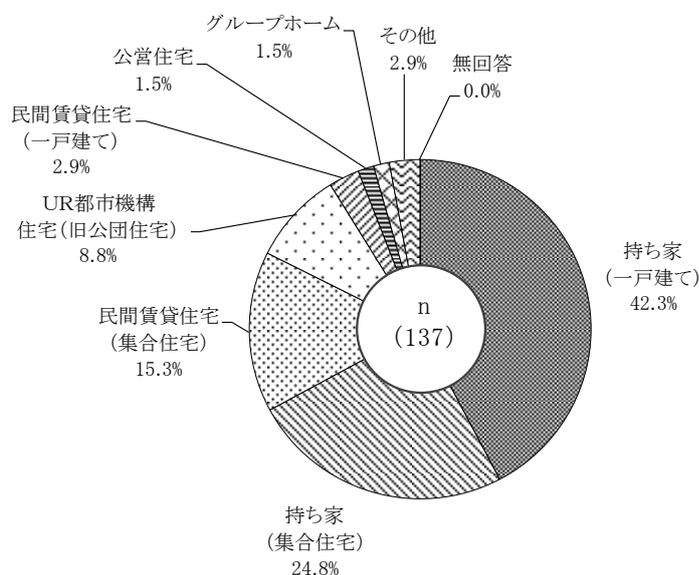
「ちば市政だより」の割合が40.1%と最も高く、次いで「医療機関」の割合が33.6%、「テレビ・ラジオ」の割合が23.4%となっています。



(6) 暮らしについて

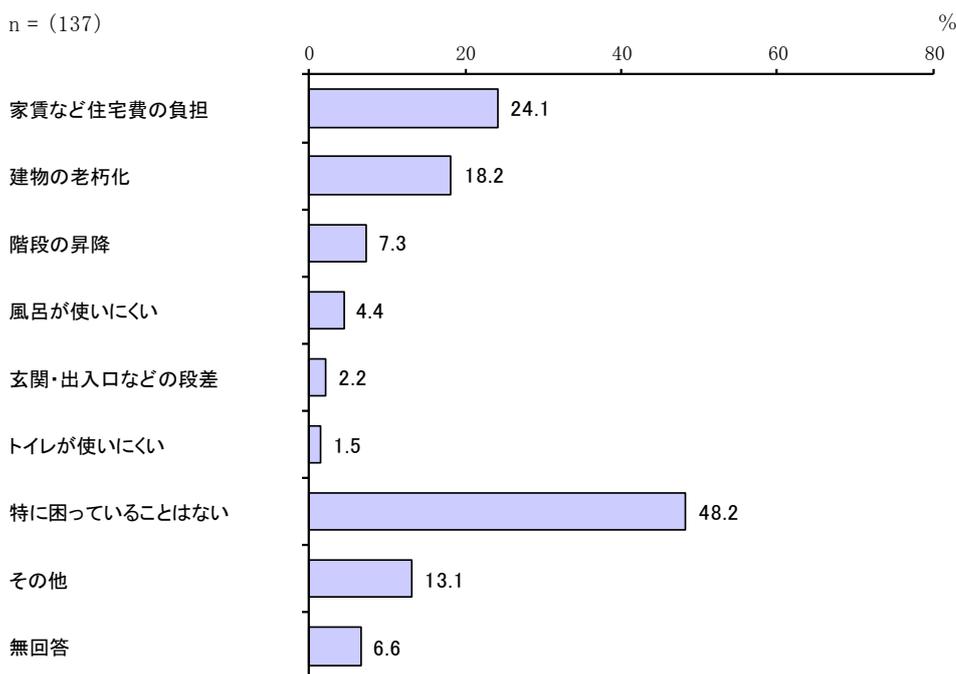
問 27 あなたのお住まいの種類をお聞きます。(○は1つ)

「持ち家（一戸建て）」の割合が 42.3%と最も高く、次いで「持ち家（集合住宅）」の割合が 24.8%、「民間賃貸住宅（集合住宅）」の割合が 15.3%となっています。



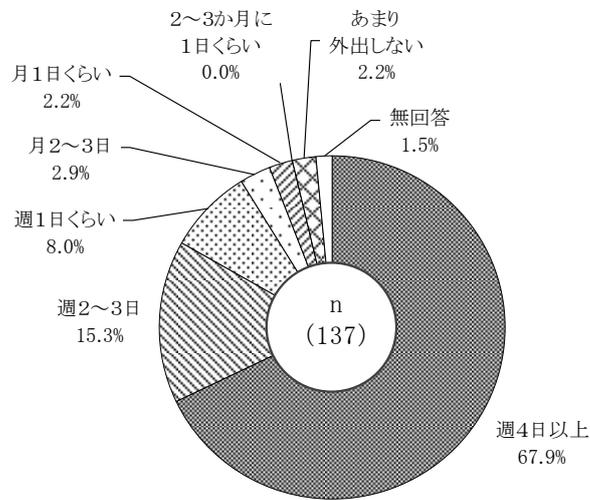
問 28 あなた（や保護者の方）は、住まいについて困っていることがありますか。(○はいくつでも)

「特に困っていることはない」の割合が 48.2%と最も高く、次いで「家賃など住宅費の負担」の割合が 24.1%、「建物の老朽化」の割合が 18.2%となっています。



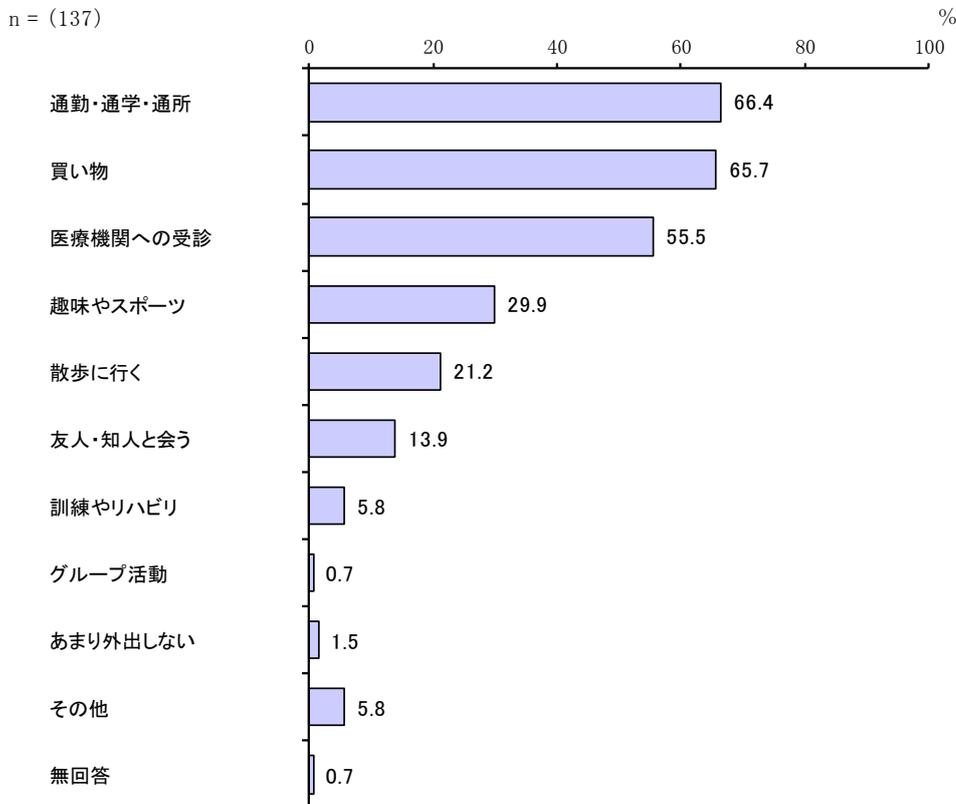
問 29 あなたは、どのくらいの頻度で外出していますか。(○は1つ)

「週4日以上」の割合が67.9%と最も高く、次いで「週2～3日」の割合が15.3%となっています。



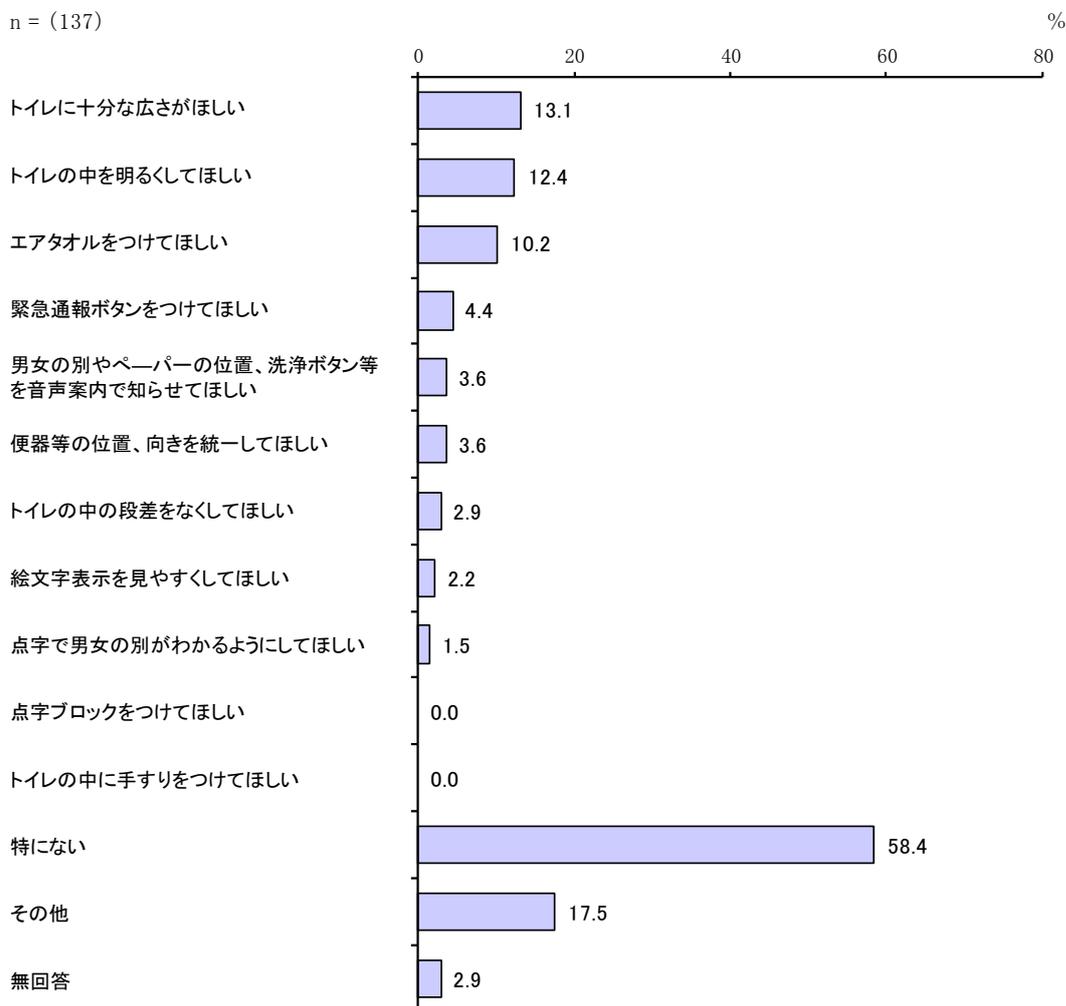
問 30 あなたは、どのような目的で外出することが多いですか。(○はいくつでも)

「通勤・通学・通所」の割合が66.4%と最も高く、次いで「買い物」の割合が65.7%、「医療機関への受診」の割合が55.5%となっています。



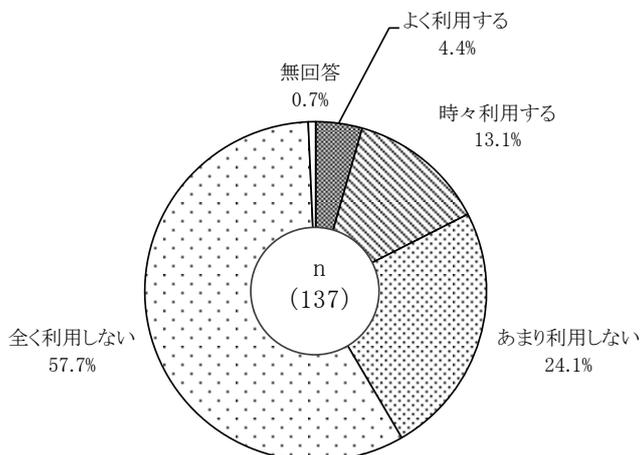
問 31 外出先のトイレに望むことは何ですか。(○はいくつでも)

「特にない」の割合が 58.4%と最も高く、次いで「トイレに十分な広さがほしい」の割合が 13.1%、「トイレの中を明るくしてほしい」の割合が 12.4%となっています。



問 32 あなたは日頃、近くの公園を利用していますか。(○は1つ)

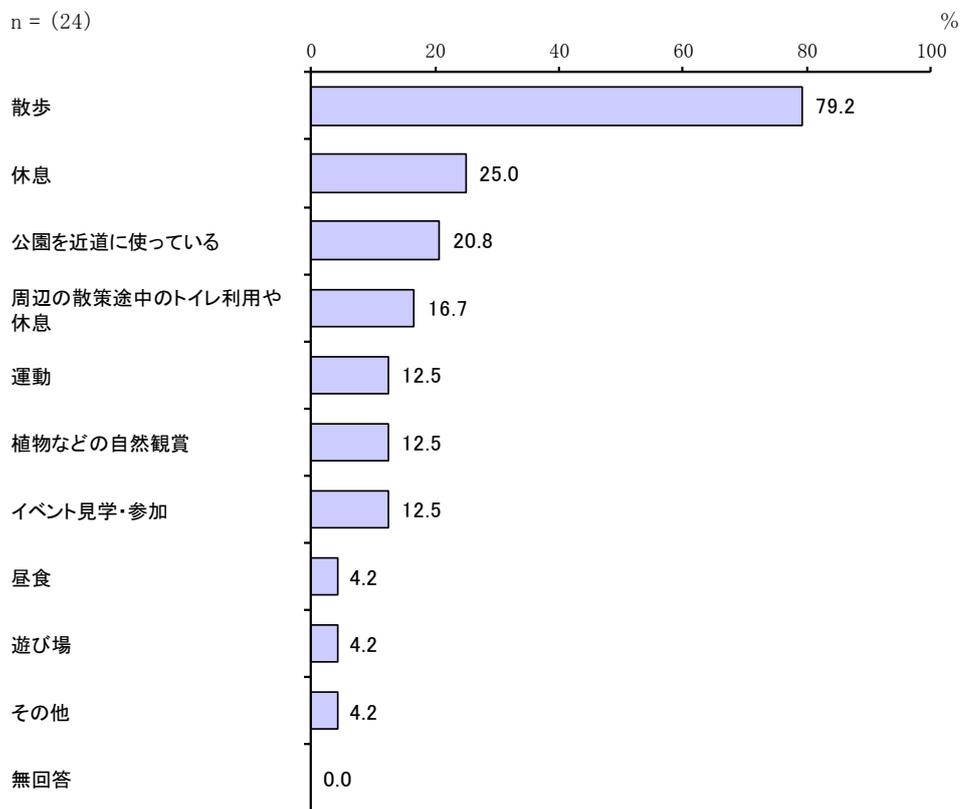
「全く利用しない」の割合が 57.7%と最も高く、次いで「あまり利用しない」の割合が 24.1%、「時々利用する」の割合が 13.1%となっています。



問 33 【問 32 で「よく利用する」または「時々利用する」に○をつけた方におたずね
します。】

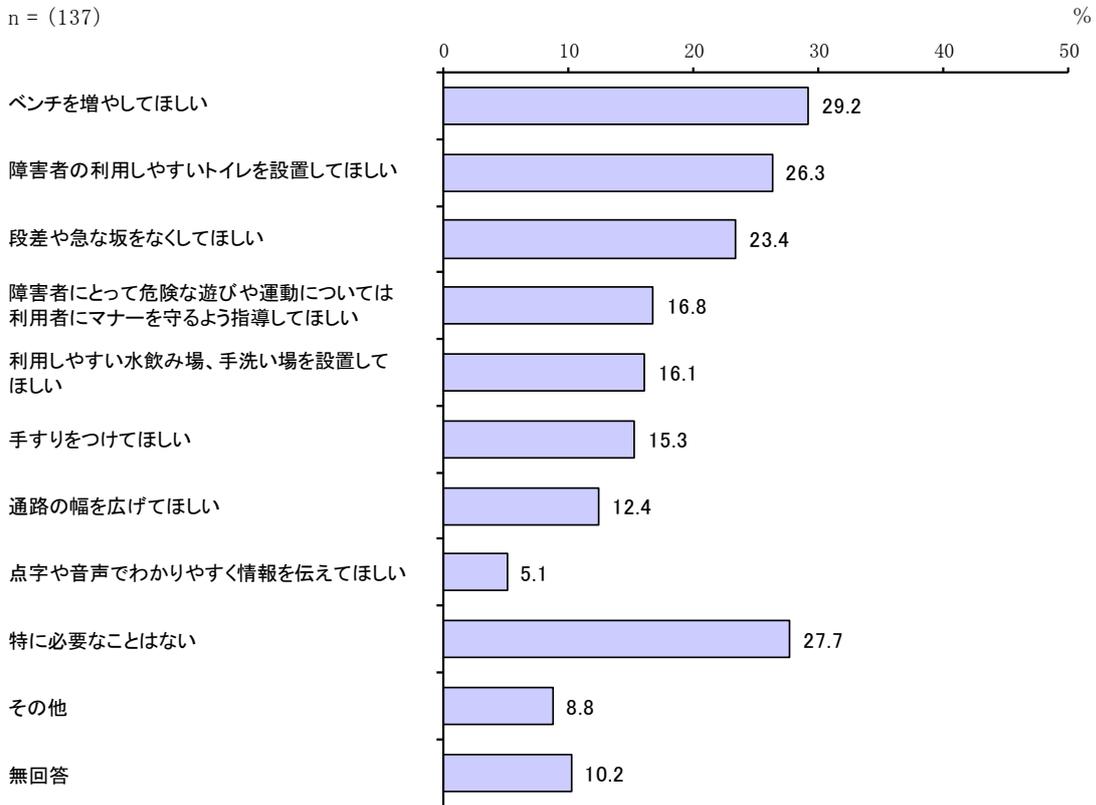
あなたが公園を利用する目的は何ですか。(○はいくつでも)

「散歩」の割合が 79.2%と最も高く、次いで「休息」の割合が 25.0%、「公園を近道に使っ
ている」の割合が 20.8%となっています。



問 34 あなたは、障害者が安心して公園を利用できるようにするために、何が必要だと思いますか。(〇はいくつでも)

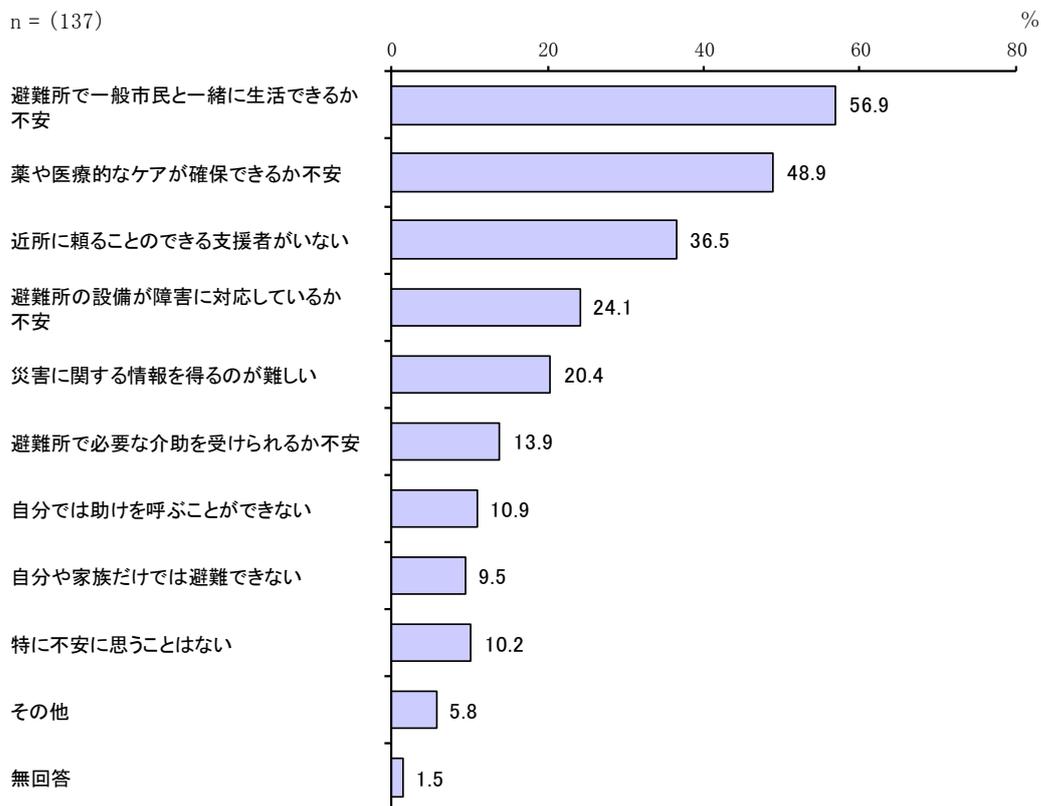
「ベンチを増やしてほしい」の割合が 29.2%と最も高く、次いで「特に必要なことはない」の割合が 27.7%、「障害者の利用しやすいトイレを設置してほしい」の割合が 26.3%となっています。



(7) 災害対策について

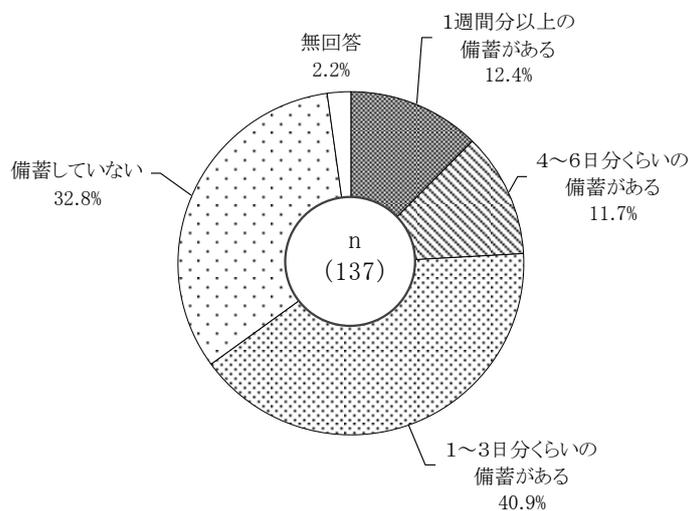
問 35 あなたは、地震などの災害が起きた時について、どのようなことを不安に思いますか。(〇はいくつでも)

「避難所で一般市民と一緒に生活できるか不安」の割合が 56.9%と最も高く、次いで「薬や医療的なケアが確保できるか不安」の割合が 48.9%、「近所に頼ることのできる支援者がいない」の割合が 36.5%となっています。



問 36 あなたは、災害発生に備えて、避難生活に必要な物資（薬や装具等）を、備蓄していますか。(〇は1つ)

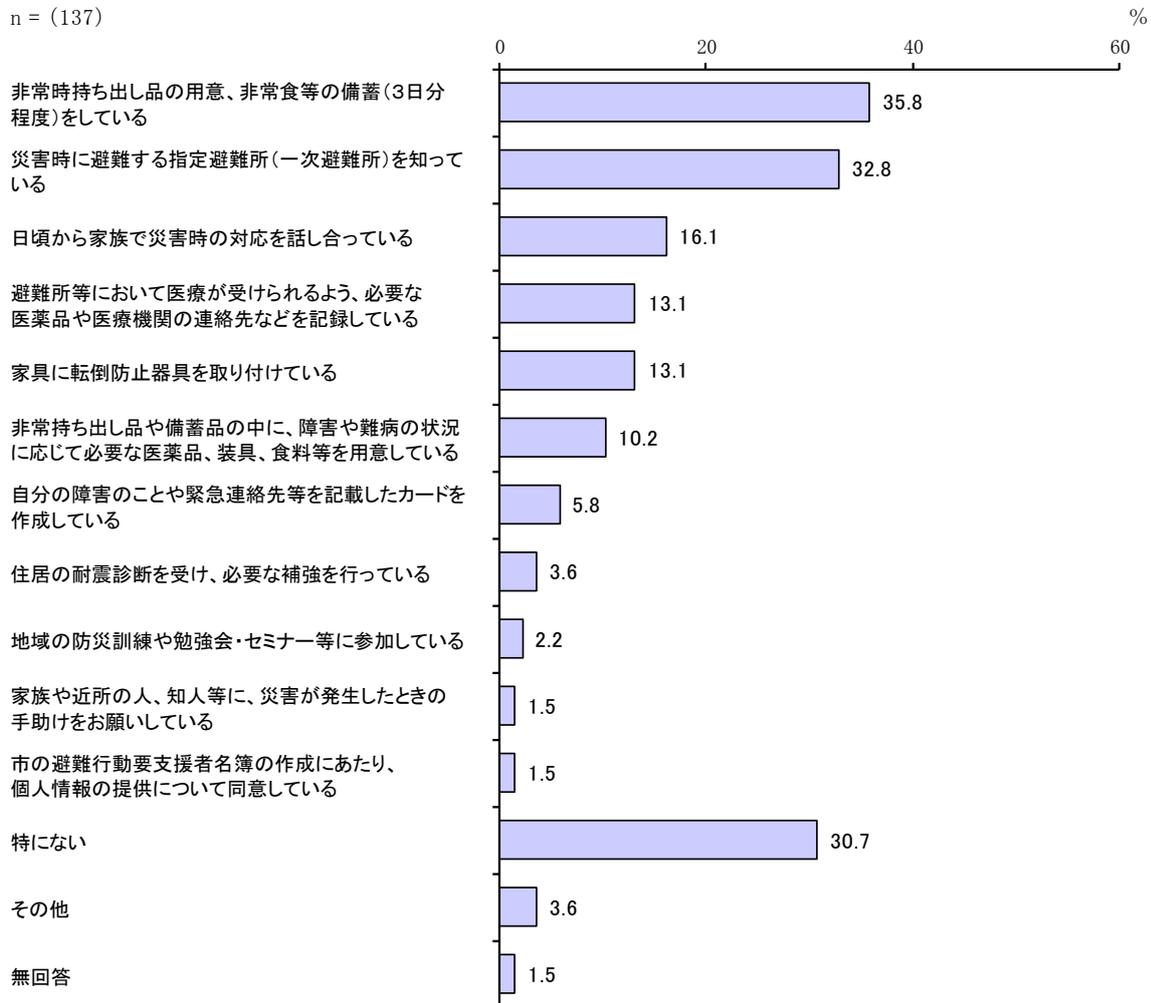
「1～3日分くらいの備蓄がある」の割合が 40.9%と最も高く、次いで「備蓄していない」の割合が 32.8%、「1週間分以上の備蓄がある」の割合が 12.4%となっています。



問 37 あなたは、災害に対してどのような備えをしていますか。(〇はいくつでも)

「非常時持ち出し品の用意、非常食等の備蓄（3日分程度）をしている」の割合が 35.8%と最も高く、次いで「災害時に避難する指定避難所（一次避難所）を知っている」の割合が 32.8%、「特にない」の割合が 30.7%となっています。

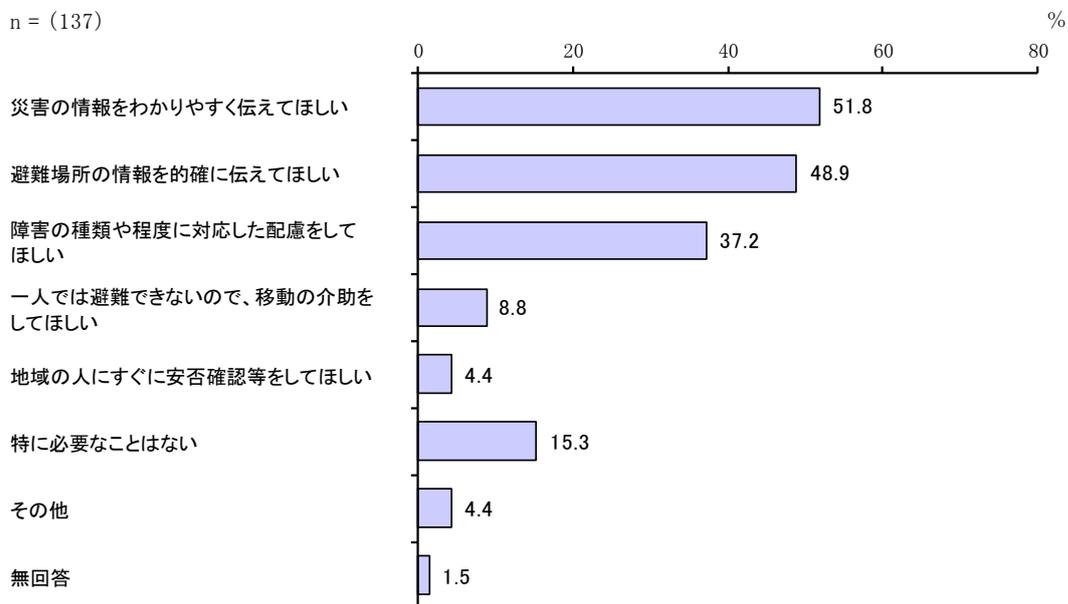
n = (137)



問 38 あなたは、災害で避難する場合に、どのような支援をしてほしいですか。
(〇はいくつでも)

「災害の情報をわかりやすく伝えてほしい」の割合が51.8%と最も高く、次いで「避難場所の情報を的確に伝えてほしい」の割合が48.9%、「障害の種類や程度に対応した配慮をしてほしい」の割合が37.2%となっています。

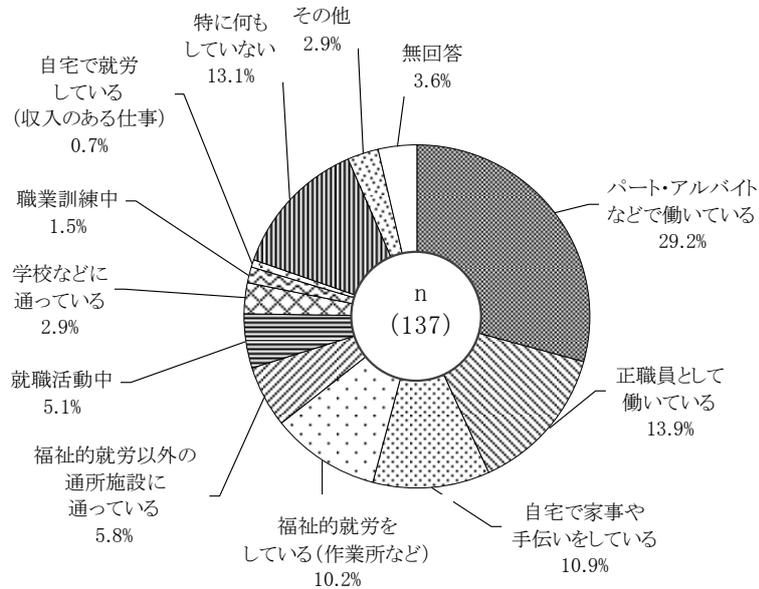
n = (137)



(8) 日中活動・就労について

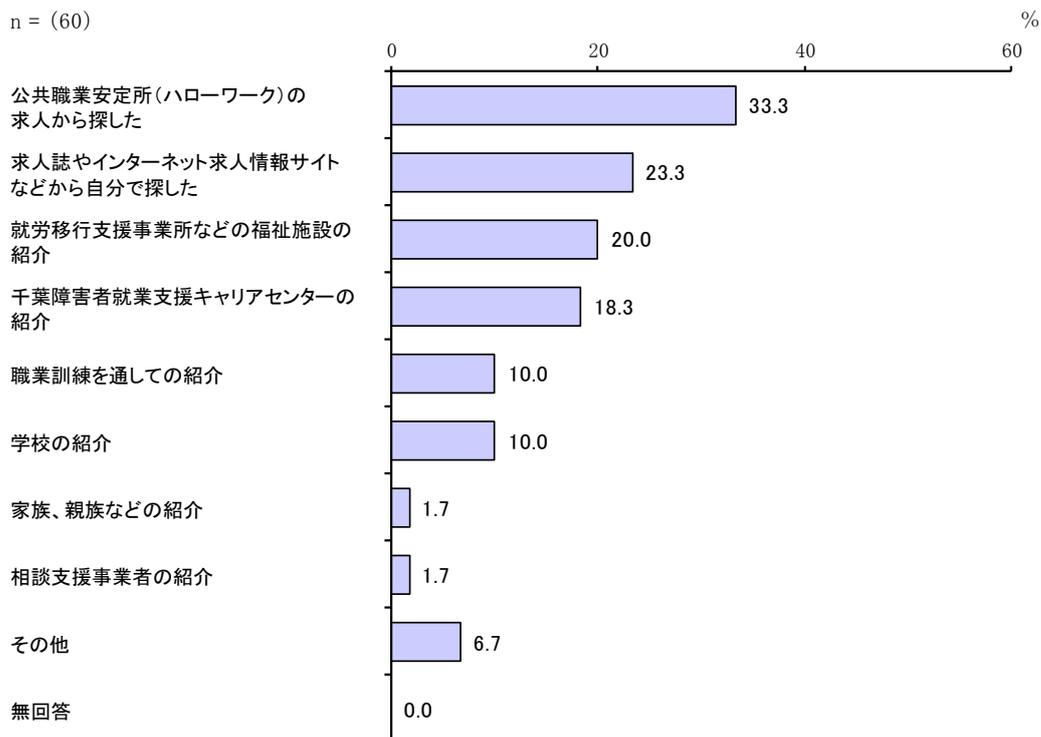
問 39 あなたは、平日の日中を主にどのように過ごしていますか。
(最もあてはまる番号1つだけ○)

「パート・アルバイトなどで働いている」の割合が29.2%と最も高く、次いで「正職員として働いている」の割合が13.9%、「特に何もしていない」の割合が13.1%となっています。



問 40 【問 39 で働いている（「正職員として働いている」～「自宅で就労している（収入のある仕事）」に○をつけた方におたずねします。】
 働いている方におたずねします。現在の仕事は、どのような方法で見つけましたか。（○はいくつでも）

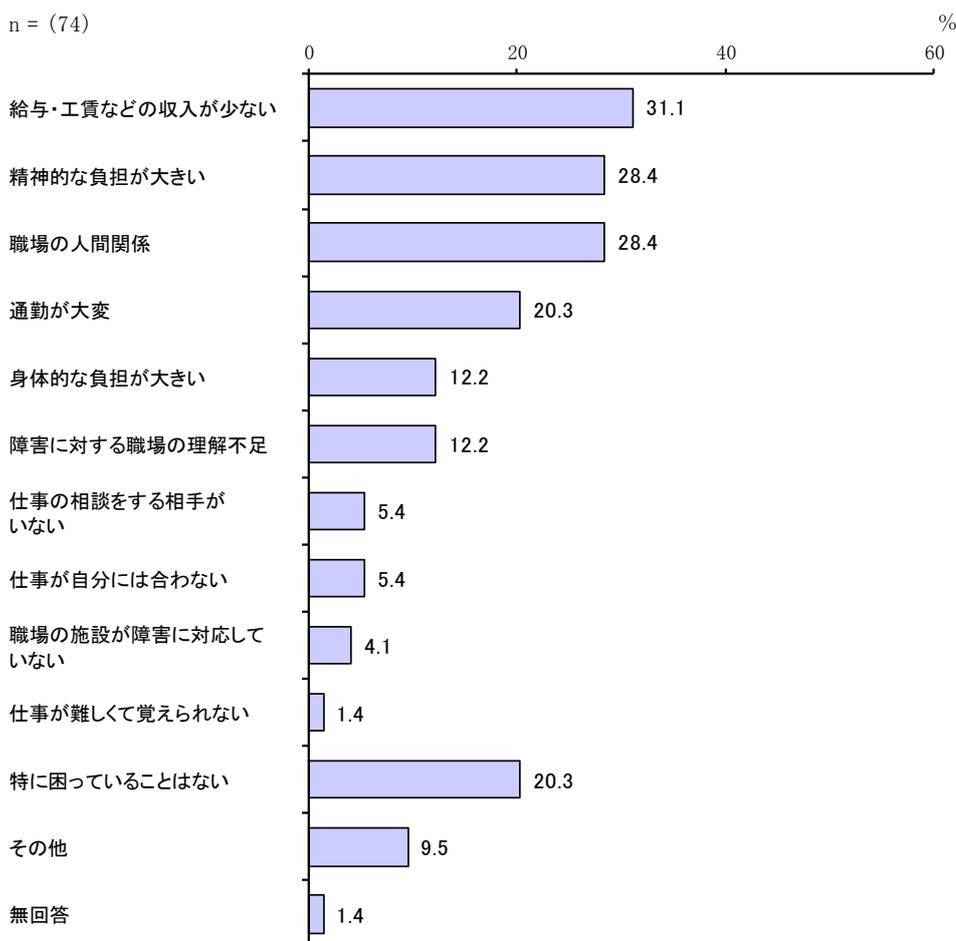
「公共職業安定所（ハローワーク）の求人から探した」の割合が 33.3%と最も高く、次いで「求人誌やインターネット求人情報サイトなどから自分で探した」の割合が 23.3%、「就労移行支援事業所などの福祉施設の紹介」の割合が 20.0%となっています。



問 41 【問 39 で働いている（「正職員として働いている」～「福祉的就労をしている（作業所など）」に○をつけた方におたずねします。】
あなたが仕事上で困っていることはなんですか。（○は3つまで）

「給与・工賃などの収入が少ない」の割合が 31.1%と最も高く、次いで「精神的な負担が大きい」、「職場の人間関係」の割合が 28.4%となっています。

平成 28 年度調査と比較すると、「給与・工賃などの収入が少ない」、「通勤が大変」の割合が増加し、「精神的な負担が大きい」、「身体的な負担が大きい」の割合が減少しています。



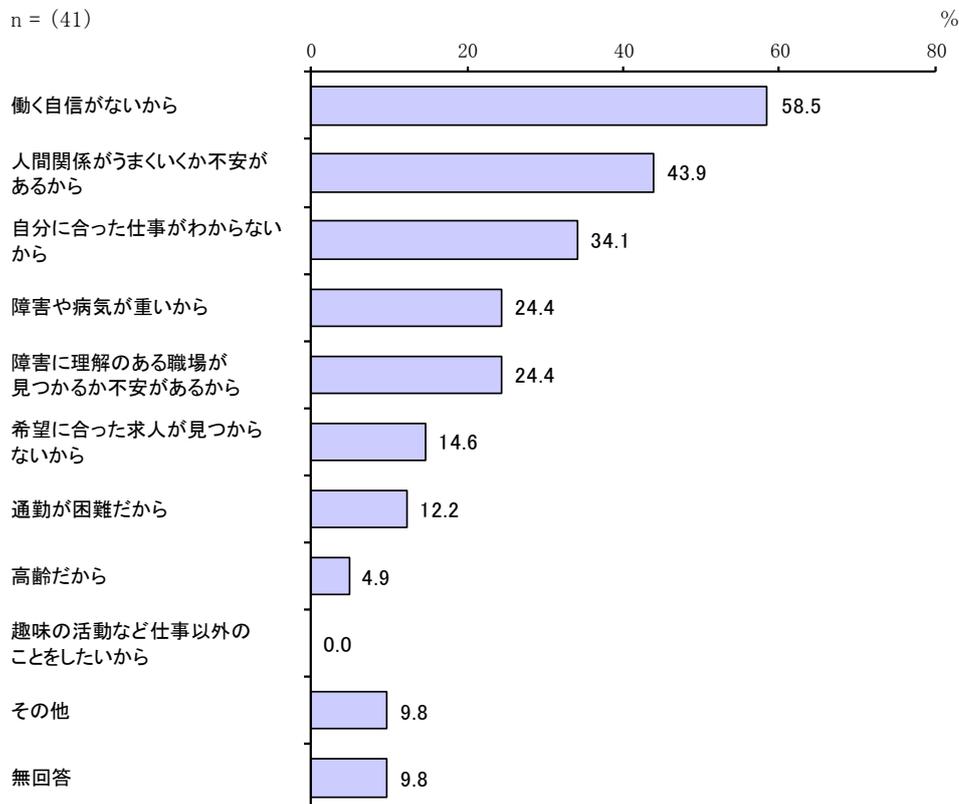
【平成 28 年度調査】

単位：%

	調査数	給与・工賃などの収入が少ない	精神的な負担が大きい	職場の人間関係	通勤が大変	身体的な負担が大きい	障害に対する職場の理解不足	仕事の相談をする相手がいない	仕事が自分には合わない	職場の施設が障害に対応していない	仕事が難しく覚えられない	特に困っていることはない	その他
全体	120	19.6	41.3	23.9	8.7	17.4	13.0	2.2	6.5	2.2	4.3	23.9	8.7

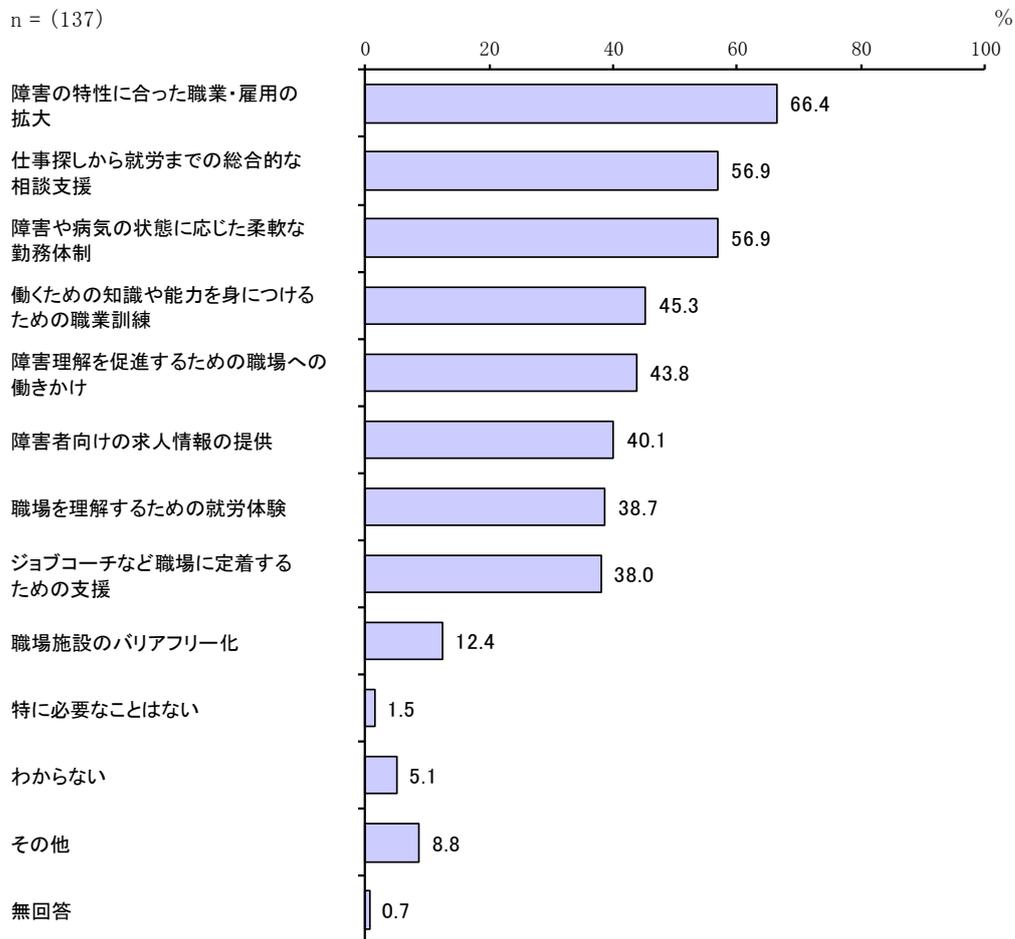
問 42 【問 39 で働いていない（「福祉的就労以外の通所施設に通っている」～「特に何もしていない」）に○をつけた方におたずねします。】
 あなたが働いていない理由はなんですか。（○は3つまで）

「働く自信がないから」の割合が 58.5%と最も高く、次いで「人間関係がうまくいか不安があるから」の割合が 43.9%、「自分に合った仕事が見つからないから」の割合が 34.1%となっています。



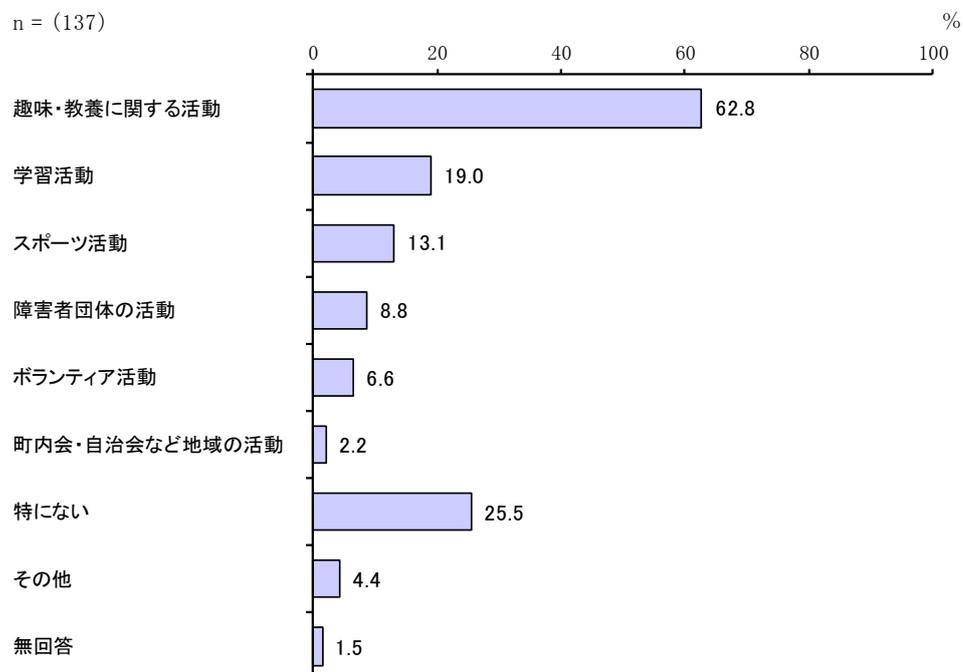
問 43 あなたは、障害のある人が企業などで一般就労するためには、どのような支援が必要だと思いますか。(〇はいくつでも)

「障害の特性に合った職業・雇用の拡大」の割合が 66.4%と最も高く、次いで「仕事探しから就労までの総合的な相談支援」、「障害や病気の状態に応じた柔軟な勤務体制」の割合が 56.9%となっています。



問 44 あなたは今後、どのような活動に取り組みたいと思いますか。すでに取り組んでいる方は、今後も取り組みたいかどうかをお答えください。(〇はいくつでも)

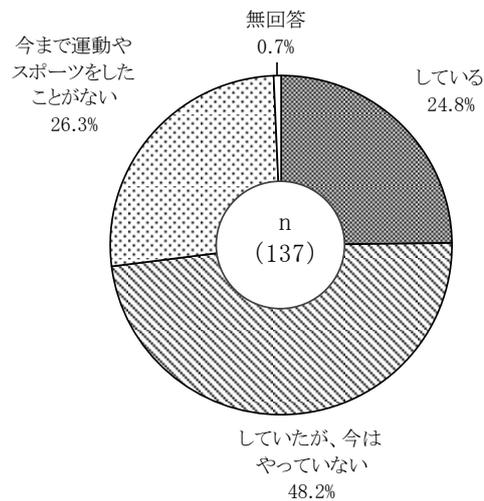
「趣味・教養に関する活動」の割合が 62.8%と最も高く、次いで「特にない」の割合が 25.5%、「学習活動」の割合が 19.0%となっています。



(9) 運動やスポーツについて

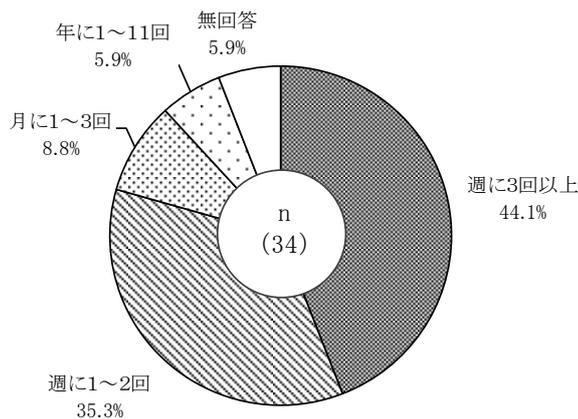
問 45 あなたは、運動やスポーツをしていますか。
(学校に通っている方は、学校の授業を除く)

「していたが、今はやっていない」の割合が 48.2%と最も高く、次いで「今まで運動やスポーツをしたことがない」の割合が 26.3%、「している」の割合が 24.8%となっています。



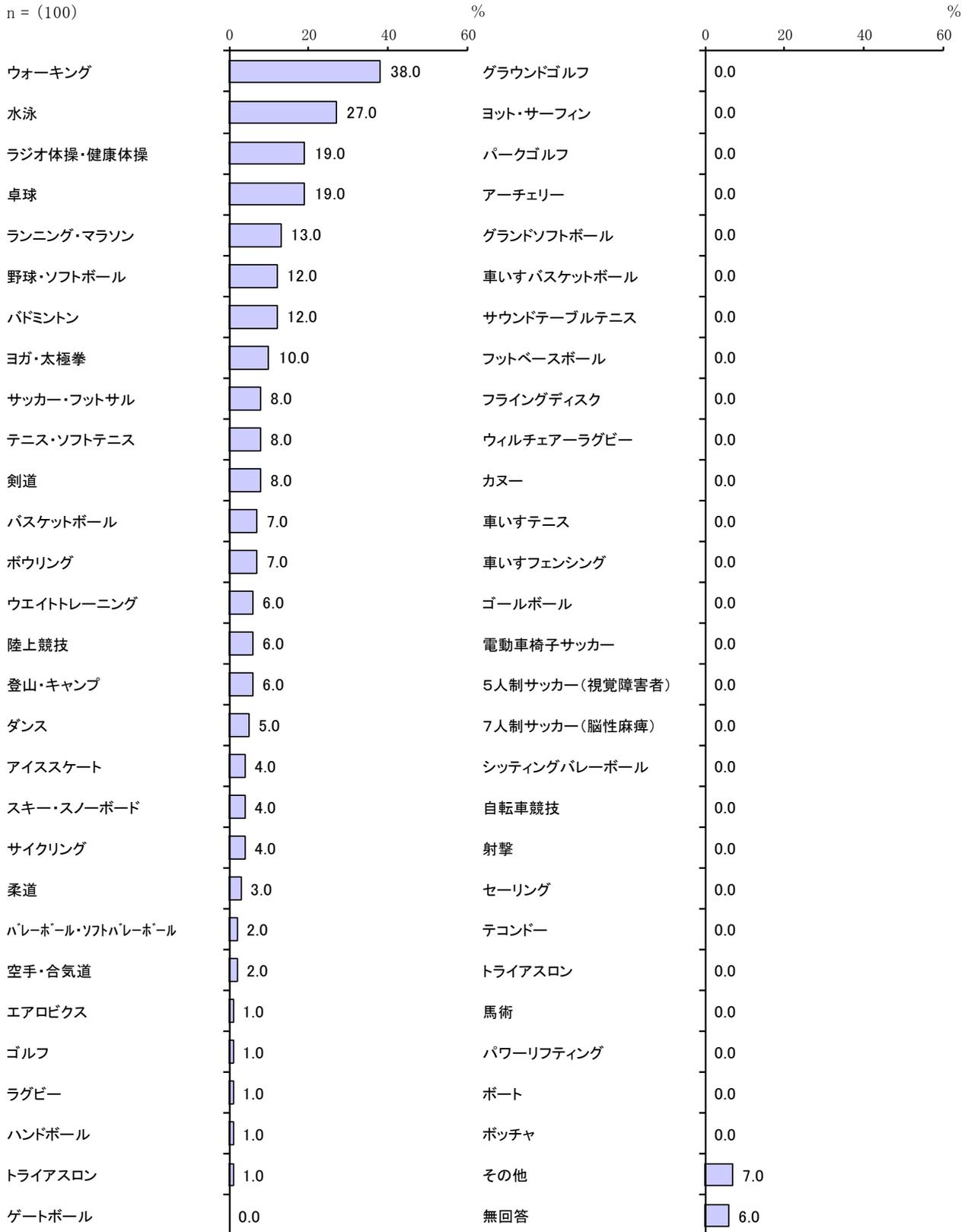
問 46 【問 45 で「している」に○をつけた方におたずねします。】
あなたは、どのくらいの頻度で運動やスポーツをしていますか。

「週に3回以上」の割合が 44.1%と最も高く、次いで「週に1～2回」の割合が 35.3%となっています。



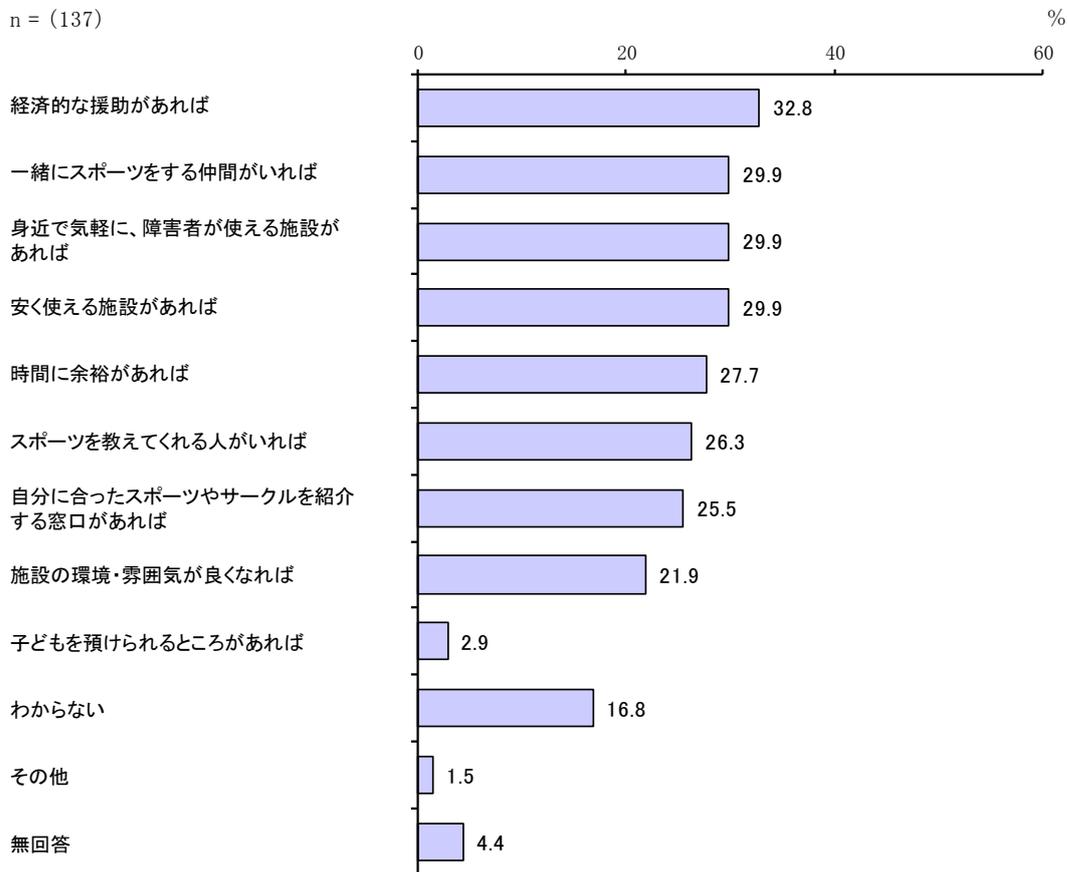
問 47 【問 45 で「1. している」または「2. していたが、今はやっていない」に○
をつけた方におたずねします。】
あなたが行っている(行っていた)運動やスポーツの種目は何ですか。
(あてはまるものすべてに○)

「ウォーキング」の割合が 38.0%と最も高く、次いで「水泳」の割合が 27.0%、「ラジオ体操・健康体操」、「卓球」の割合が 19.0%となっています。



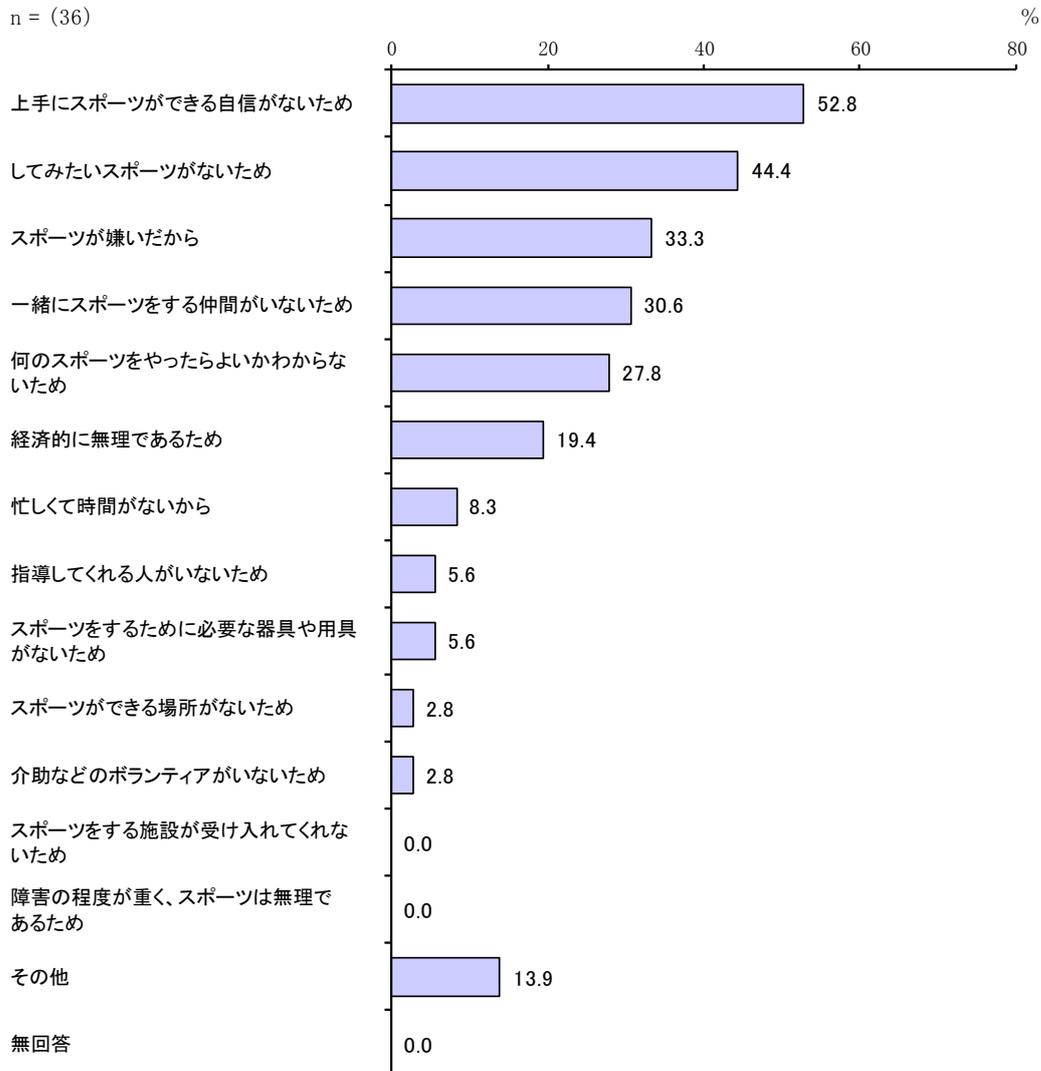
問 48 今後、障害のある方がスポーツ活動を、より多く行うためには、どのようになればいいと思いますか。（あてはまるものすべてに○）

「経済的な援助があれば」の割合が 32.8%と最も高く、次いで「一緒にスポーツをする仲間がいれば」、「身近で気軽に、障害者が使える施設があれば」、「安く使える施設があれば」の割合が 29.9%となっています。



**問 49 【問 45 で「今まで運動やスポーツをしたことがない」に○をつけた方におたずねします。】
あなたがスポーツをしない理由は何ですか。（あてはまるものすべてに○）**

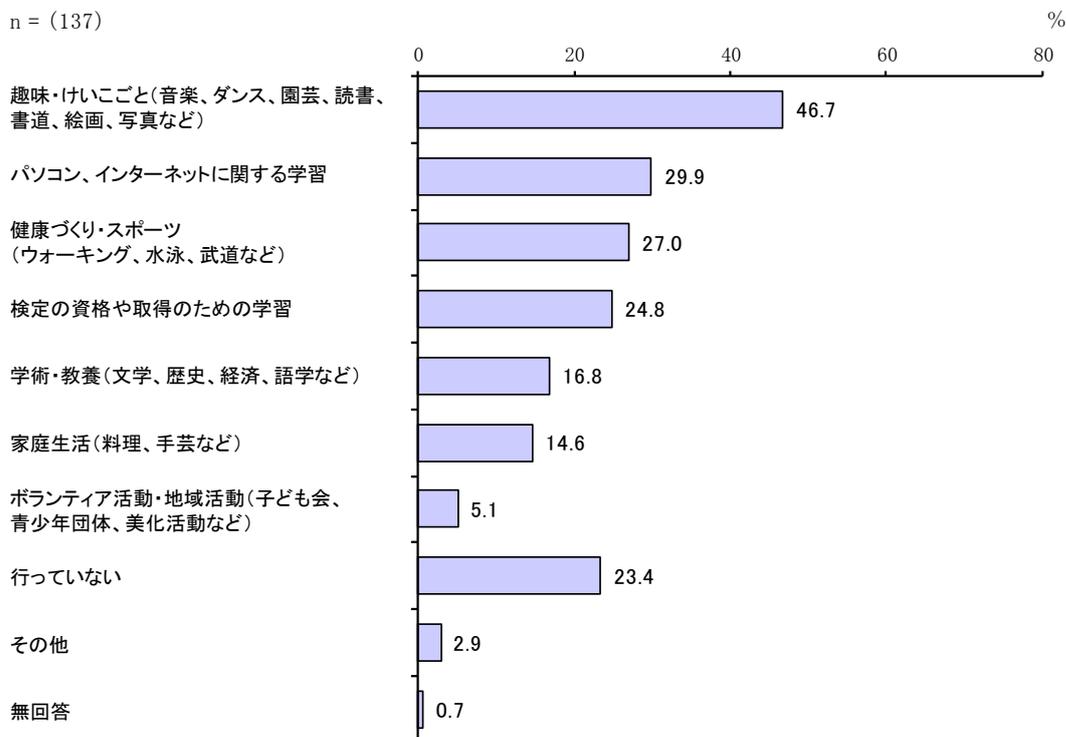
「上手にスポーツができる自信がないため」の割合が 52.8%と最も高く、次いで「してみたいスポーツがないため」の割合が 44.4%、「スポーツが嫌いだから」の割合が 33.3%となっています。



(10) 趣味や教養などの生涯学習活動について

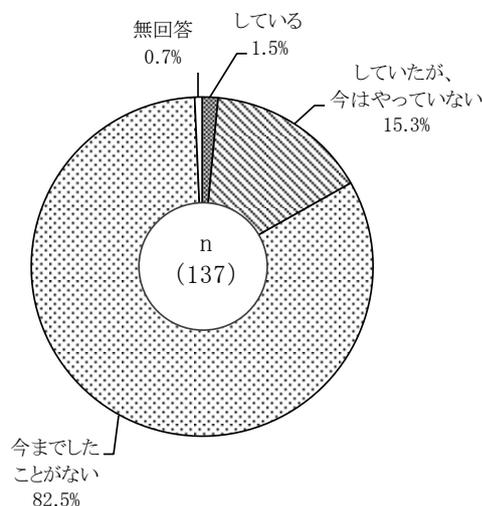
問 50 次の選択肢は、趣味や教養などの、生涯学習に関する活動といえるものです。
あなたがやっている(行っていた)活動は何ですか。(あてはまるものすべてに○)

「趣味・けいこごと(音楽、ダンス、園芸、読書、書道、絵画、写真など)」の割合が 46.7%と最も高く、次いで「パソコン、インターネットに関する学習」の割合が 29.9%、「健康づくり・スポーツ(ウォーキング、水泳、武道など)」の割合が 27.0%となっています。



問 51 あなたは、趣味や学習活動のため、生涯学習センター・公民館等で実施されている講座を受講したことがありますか。
(学校に通っている方は、学校の授業を除く)

「今までしたことがない」の割合が 82.5%と最も高く、次いで「していたが、今はやっていない」の割合が 15.3%となっています。

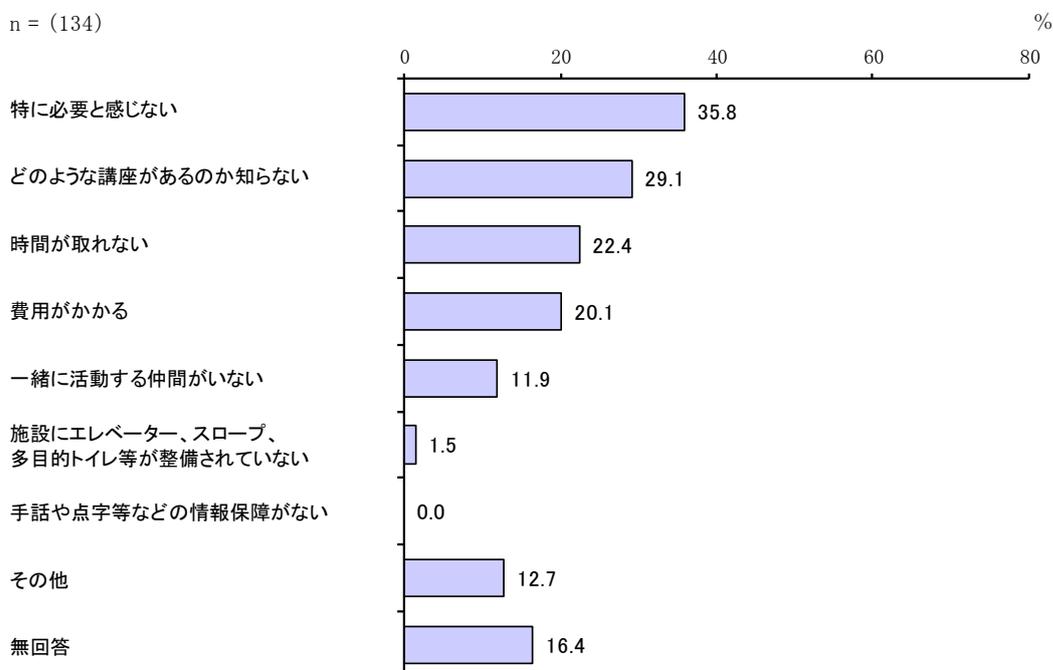


問 52 【問 51 で「している」と回答した方におたずねします。】
 あなたは、どのくらいの頻度で生涯学習センター・公民館等で実施されている講座の受講をしていますか。

「月に1～3回」、「年に1～11回」が1件となっています。

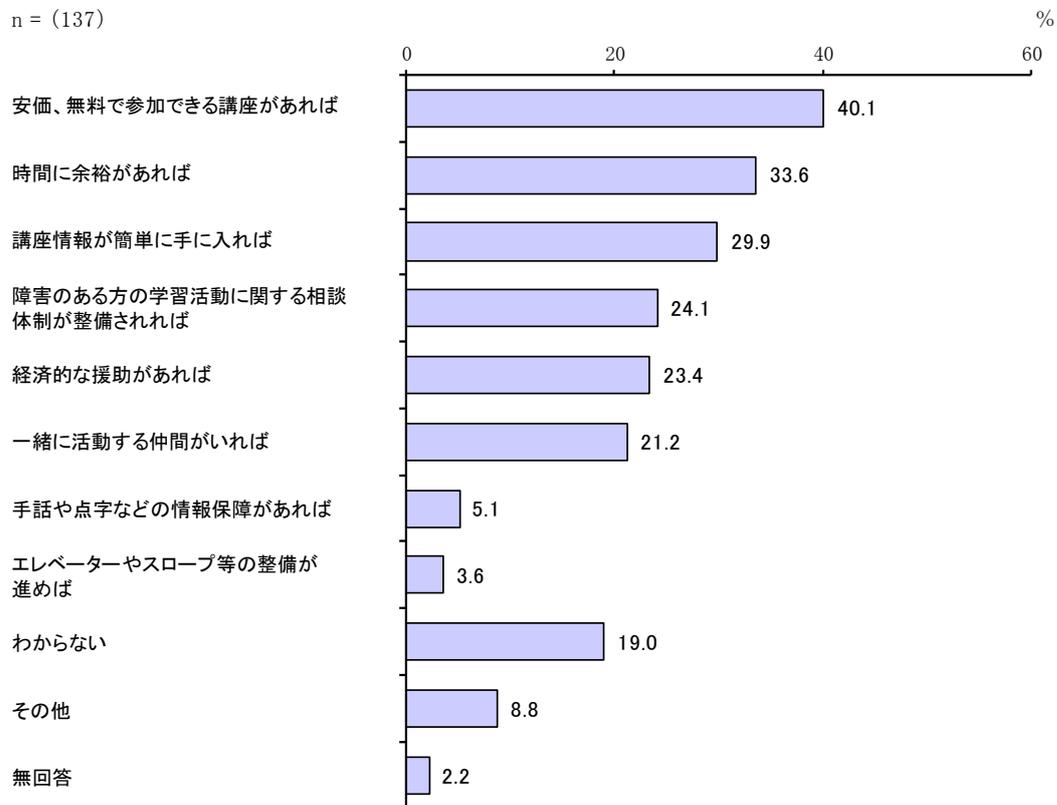
問 53 【問 51 で「していたが今はやっていない」または「今までしたことがない」と回答した方におたずねします。】
 あなたが趣味や学習活動のため、生涯学習センター・公民館等で実施されている講座を受講しない理由は何ですか。

「特に必要と感じない」の割合が35.8%と最も高く、次いで「どのような講座があるのか知らない」の割合が29.1%、「時間が取れない」の割合が22.4%となっています。



問 54 今後、障害のある方が、趣味や学習活動のため、生涯学習センター・公民館等で実施されている講座の受講を、より多く行うためには、どのようになればいいと思いますか。(あてはまるものすべてに○)

「安価、無料で参加できる講座があれば」の割合が 40.1%と最も高く、次いで「時間に余裕があれば」の割合が 33.6%、「講座情報が簡単に手に入れば」の割合が 29.9%となっています。

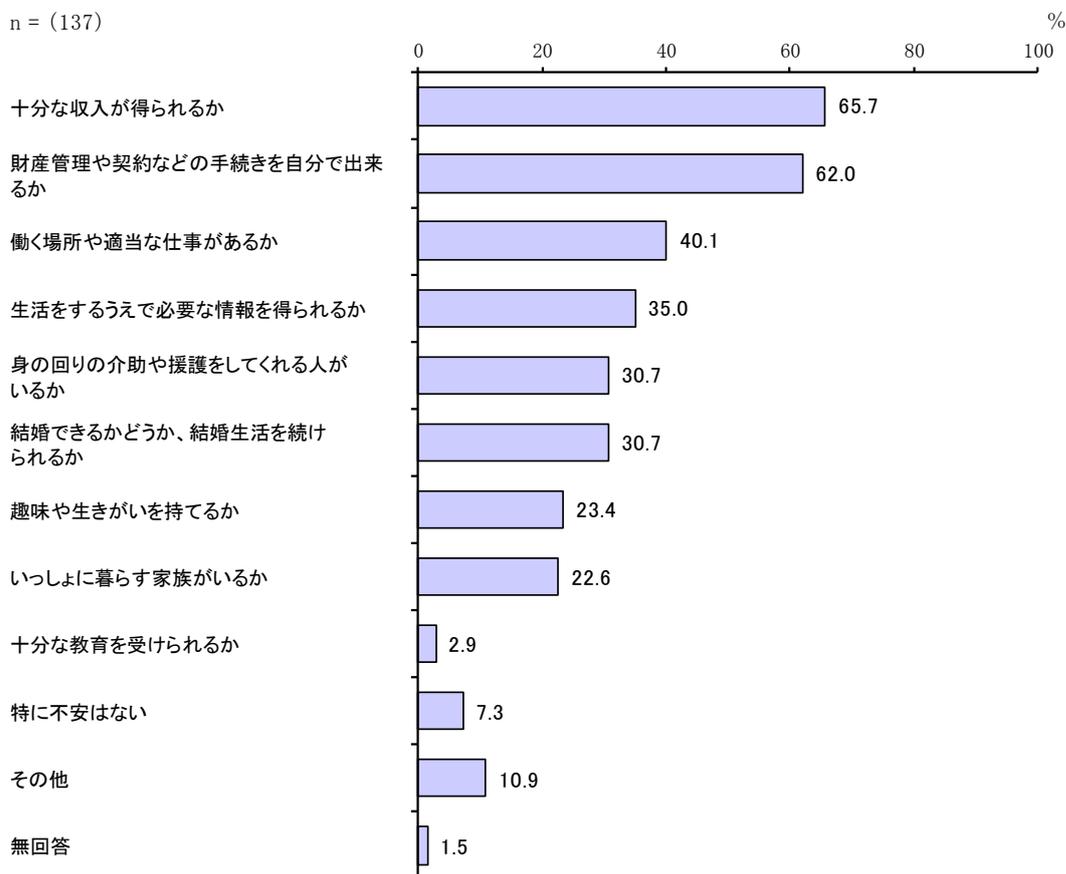


(11) 将来について

問 55 あなたは、親なき後の生活を考えたとき、どのような不安がありますか。
(○はいくつでも)

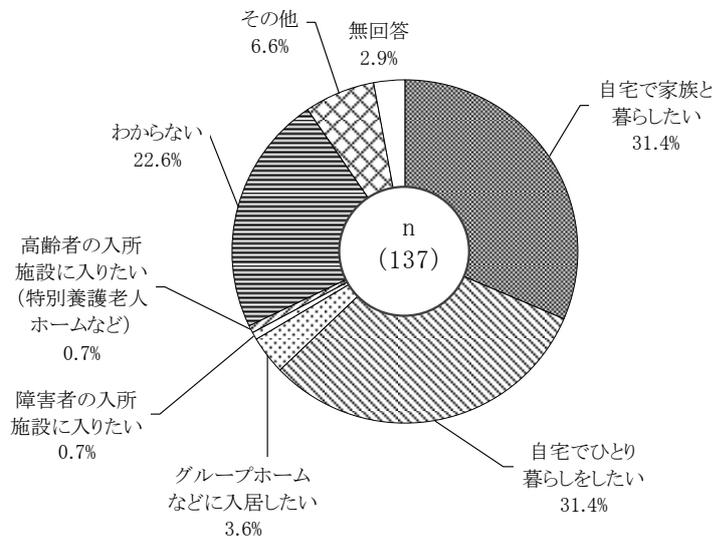
「十分な収入が得られるか」の割合が 65.7%と最も高く、次いで「財産管理や契約などの手続きを自分で出来るか」の割合が 62.0%、「働く場所や適当な仕事があるか」の割合が 40.1%となっています。

n = (137)



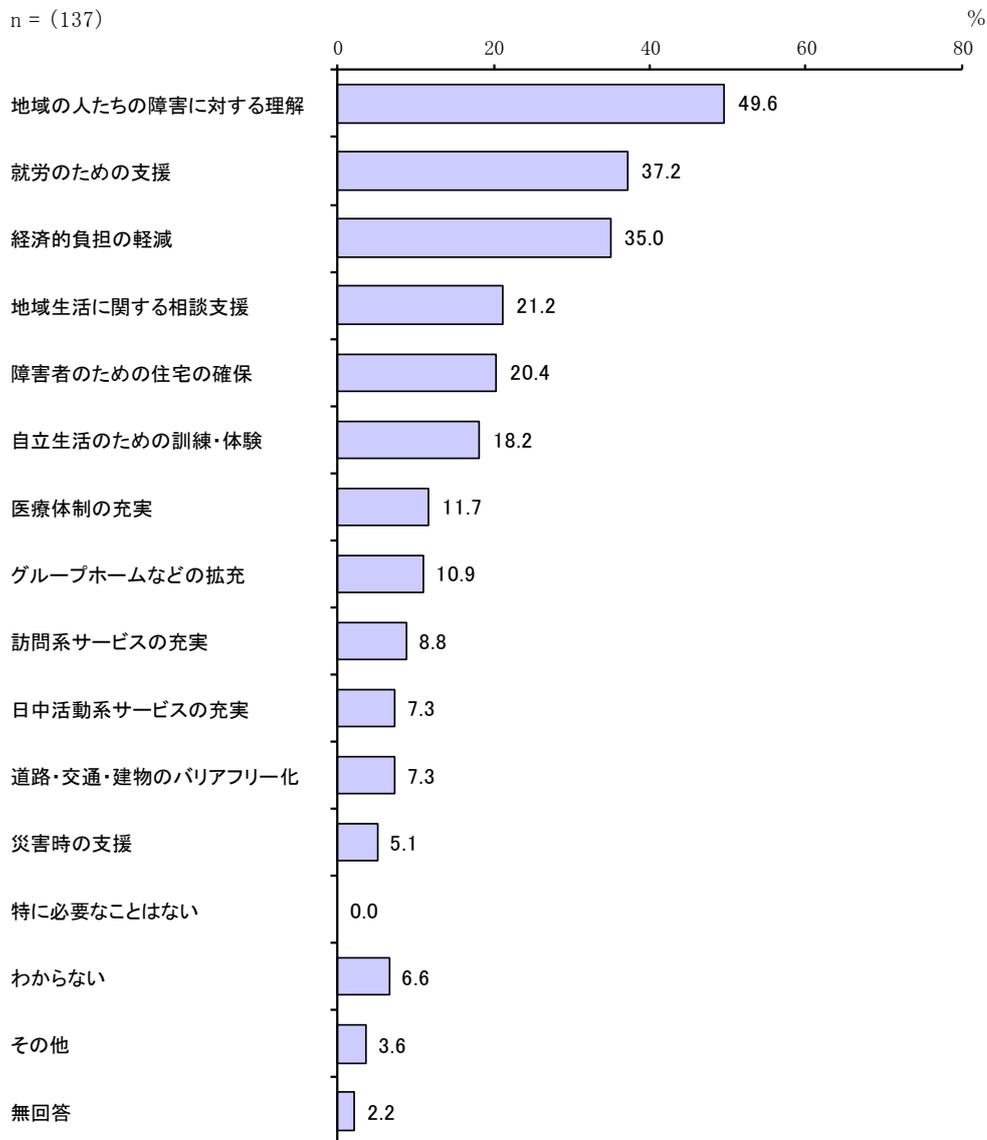
問 56 あなたは将来、どのような暮らし方をしたいと思いますか。(〇は1つ)

「自宅で家族と暮らしたい」、「自宅でひとり暮らしをしたい」の割合が31.4%と最も高く、次いで「わからない」の割合が22.6%となっています。



問 57 あなたは、障害のある人が地域で生活していくためには、何が必要だと思いますか。(〇は3つまで)

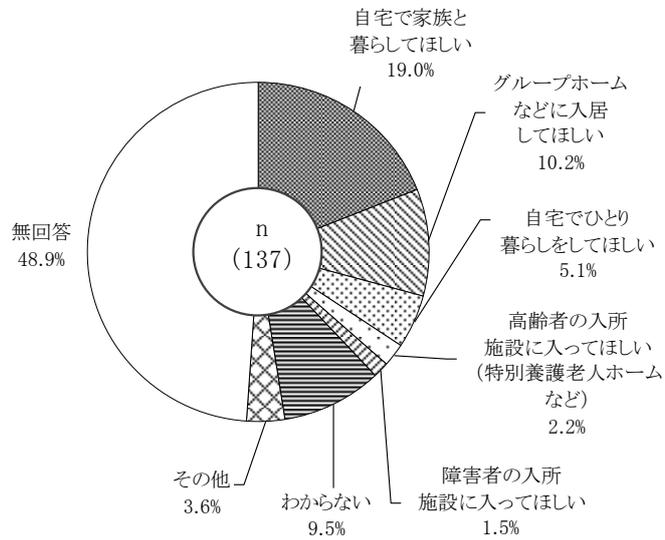
「地域の人たちの障害に対する理解」の割合が 49.6%と最も高く、次いで「就労のための支援」の割合が 37.2%、「経済的負担の軽減」の割合が 35.0%となっています。



問 58 【主な介助者の方におたずねします。】

今あなたが介助をしている人に、将来どのような暮らし方をしてほしいと思いますか。(○は1つ)

「自宅で家族と暮らしてほしい」の割合が19.0%と最も高く、次いで「グループホームなどに入居してほしい」の割合が10.2%となっています。

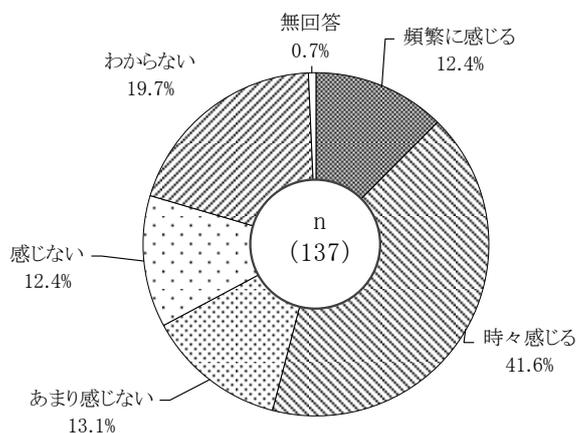


(12) 障害のある人に対する理解度

問 59 あなたは、普段の生活のなかで、差別を感じることはありませんか。(○は1つ)

「頻繁に感じる」と「時々感じる」をあわせた“感じる”の割合が54.0%、「あまり感じない」と「感じない」をあわせた“感じない”の割合が25.5%となっています。

平成28年度調査と比較すると、“感じる”の割合が増加しています。



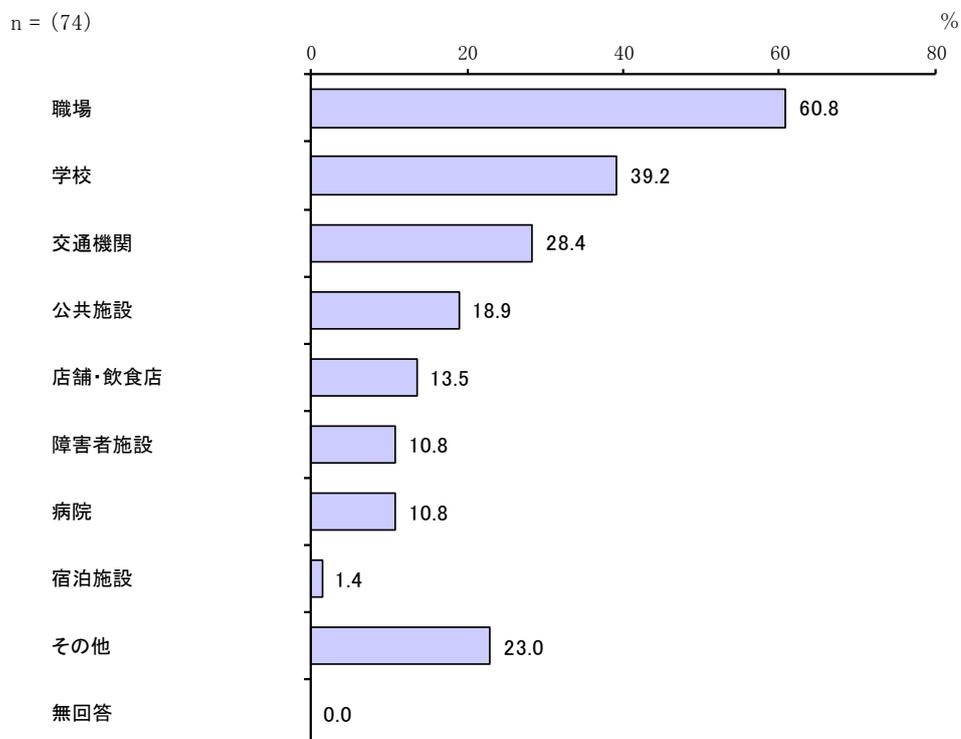
【平成28年度調査】

単位：%

	調査数	頻繁に感じる	時々感じる	あまり感じない	感じない	わからない	無回答
全体	120	5.8	20.0	29.2	20.8	24.2	-

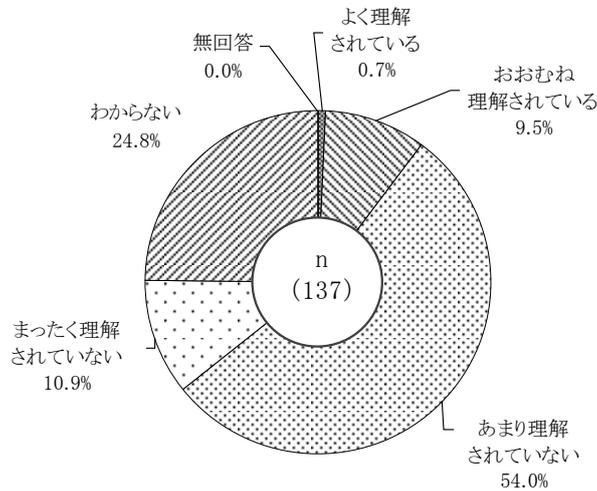
問 60 差別を感じた経験のある方におたずねします。それはどのような場所でありましたか。(〇はいくつでも)

「職場」の割合が60.8%と最も高く、次いで「学校」の割合が39.2%、「交通機関」の割合が28.4%となっています。



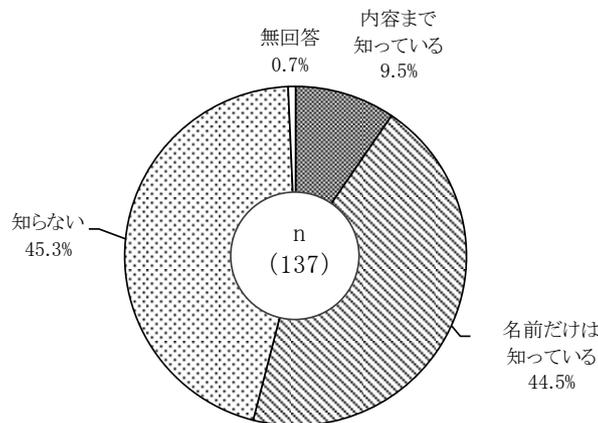
問 61 あなたは、障害のある人に対する市民の理解が、どの程度あると感じていますか。(〇は1つ)

「よく理解されている」と「おおむね理解されている」をあわせた“理解されている”の割合が 10.2%、「あまり理解されていない」と「まったく理解されていない」をあわせた“理解されていない”の割合が 64.9%となっています。



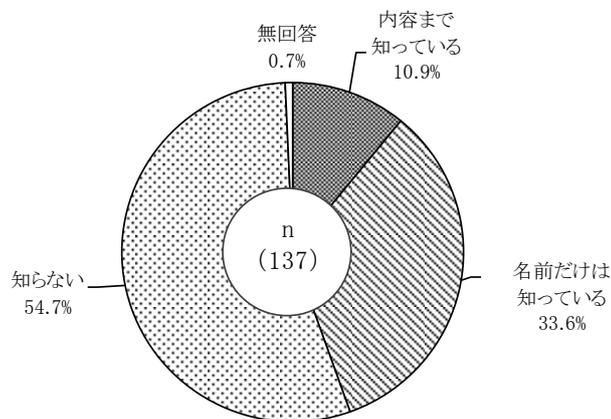
問 62 障害者への差別をなくすことを目的として、平成 28 年 4 月 1 日に「障害者差別解消法」が施行されましたが、その法律について知っていますか。(〇は1つ)

「知らない」の割合が 45.3%と最も高く、次いで「名前だけは知っている」の割合が 44.5%となっています。



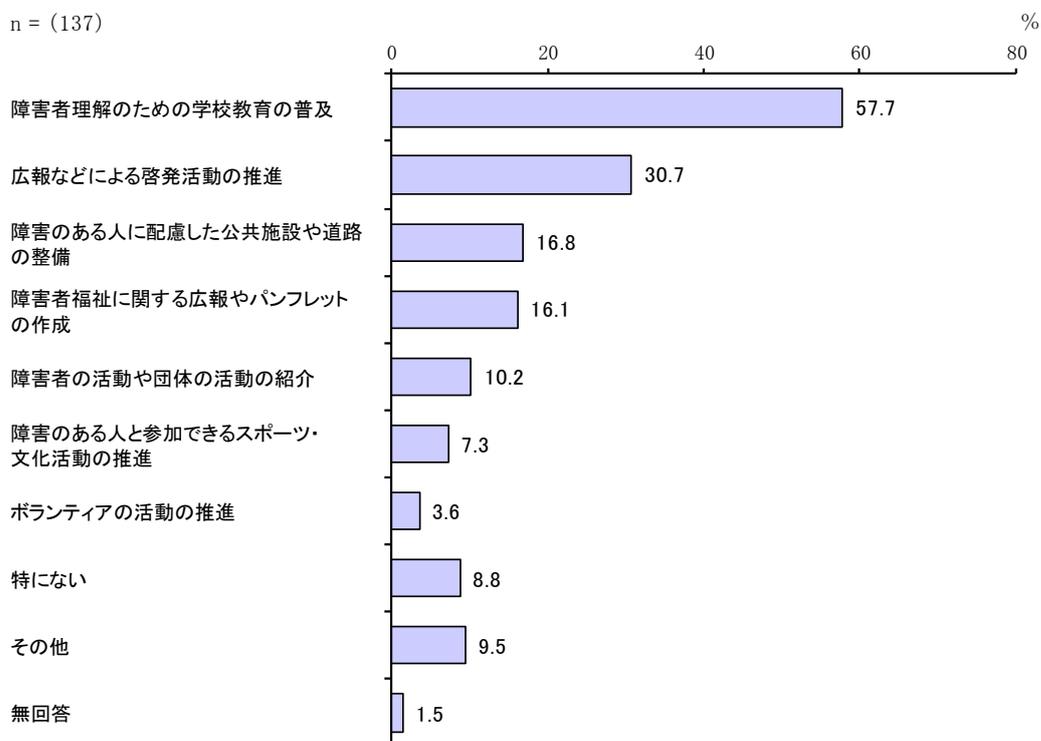
問 63 障害者への虐待を発見した場合や障害者が虐待を受けた場合に、市へ通報や届出をする「障害者虐待防止法」が平成 24 年 10 月 1 日に施行されましたが、その法律について知っていますか。(○は1つ)

「知らない」の割合が 54.7%と最も高く、次いで「名前だけは知っている」の割合が 33.6%、「内容まで知っている」の割合が 10.9%となっています。



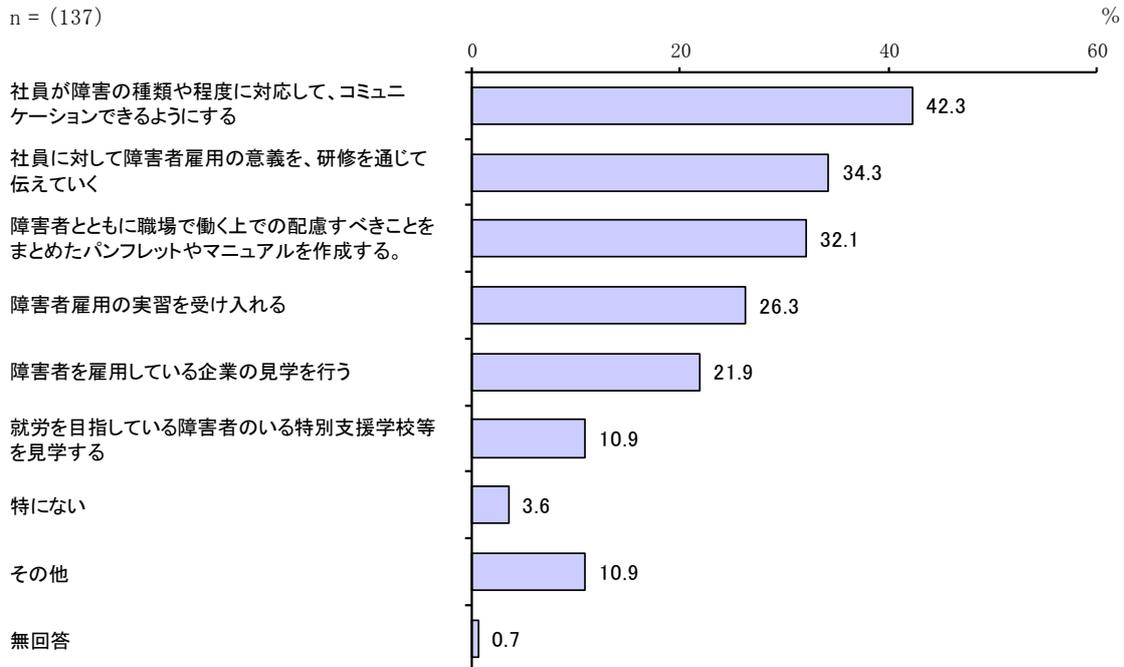
問 64 あなたは、障害者に対する理解をより深めるために、どのようなことを行政に取り組んでもらいたいですか。(○は2つまで)

「障害者理解のための学校教育の普及」の割合が 57.7%と最も高く、次いで「広報などによる啓発活動の推進」の割合が 30.7%、「障害のある人に配慮した公共施設や道路の整備」の割合が 16.8%となっています。



問 65 あなたは、障害者に対する理解をより深めるために、どのようなことを企業に取り組んでもらいたいですか。(○は2つまで)

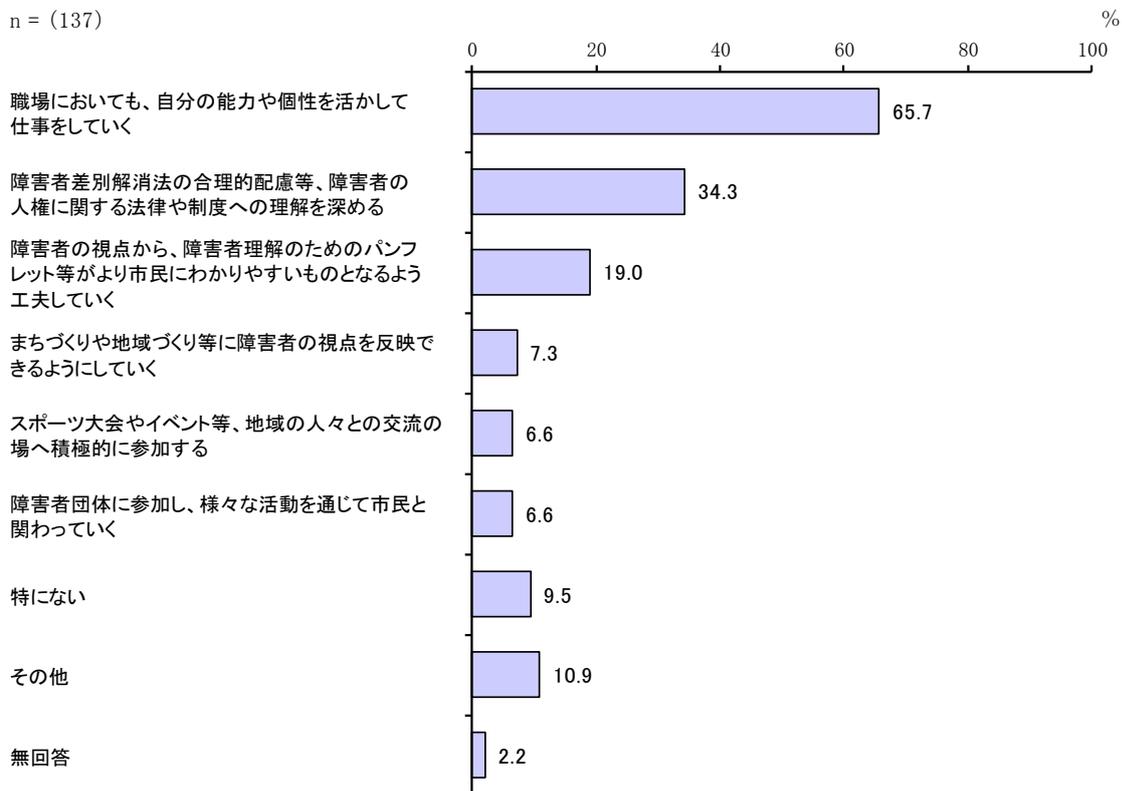
「社員が障害の種類や程度に対応して、コミュニケーションできるようにする」の割合が42.3%と最も高く、次いで「社員に対して障害者雇用の意義を、研修を通じて伝えていく」の割合が34.3%、「障害者とともに職場で働く上での配慮すべきことをまとめたパンフレットやマニュアルを作成する。」の割合が32.1%となっています。



問 66 障害者への理解を深めるために、障害者自身がどのような取り組みをしていく必要があると思いますか。(○は2つまで)

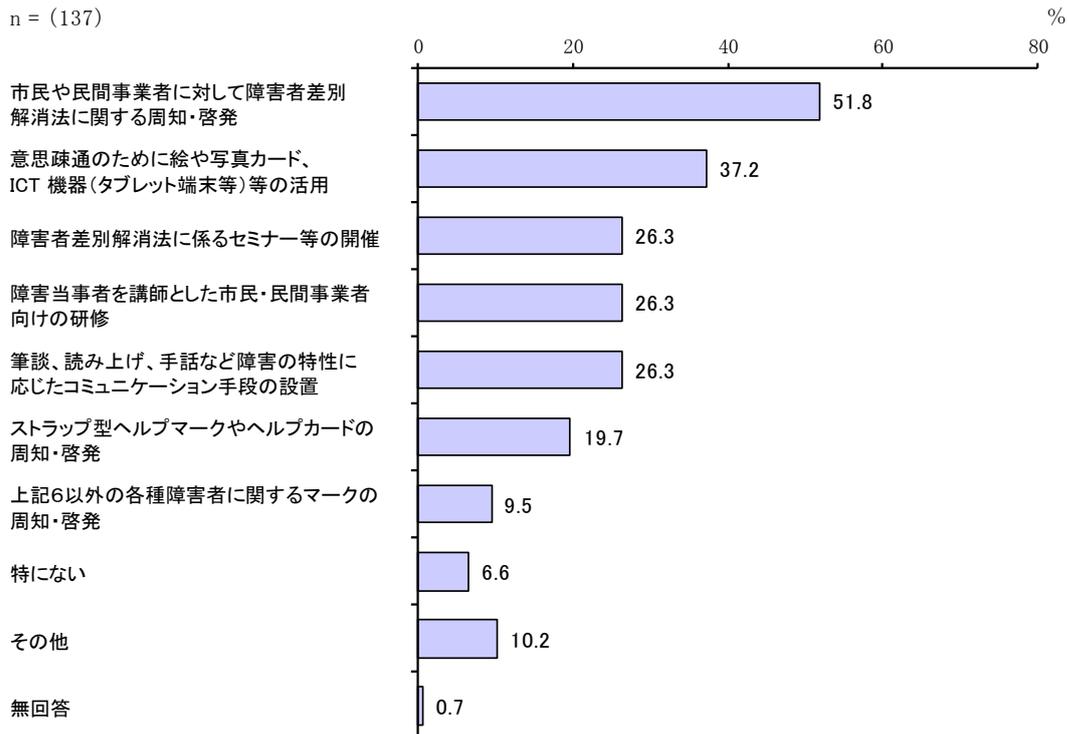
「職場においても、自分の能力や個性を活かして仕事をしていく」の割合が 65.7%と最も高く、次いで「障害者差別解消法の合理的配慮等、障害者の人権に関する法律や制度への理解を深める」の割合が 34.3%、「障害者の視点から、障害者理解のためのパンフレット等がより市民にわかりやすいものとなるよう工夫していく」の割合が 19.0%となっています。

n = (137)



問 67 社会的障壁の除去に向けて、合理的配慮を進めていくために必要なことは何だと思われるですか。(〇は3つまで)

「市民や民間事業者に対して障害者差別解消法に関する周知・啓発」の割合が51.8%と最も高く、次いで「意思疎通のために絵や写真カード、ICT機器(タブレット端末等)等の活用」の割合が37.2%、「障害者差別解消法に係るセミナー等の開催」、「障害当事者を講師とした市民・民間事業者向けの研修」、「筆談、読み上げ、手話など障害の特性に応じたコミュニケーション手段の設置」の割合が26.3%となっています。



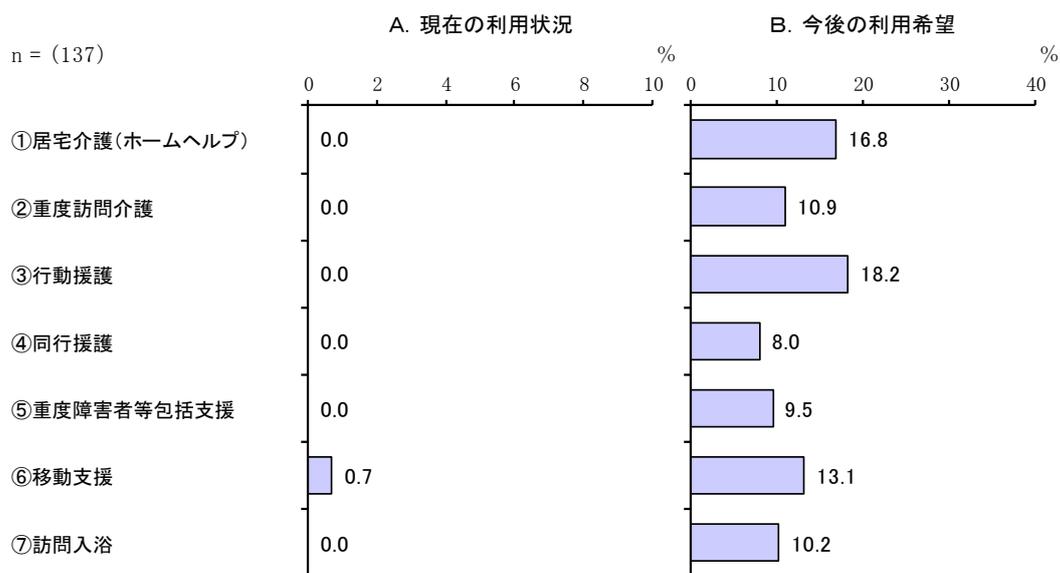
(13) サービス利用について

問 68 あなたは、次のような訪問系サービスを利用していますか。また今後利用したいと思いませんか。すでに利用している方も、今後利用したいかどうかをお答えください。

(①～⑦のそれぞれのサービスについて、回答欄Aは1・2のどちらか、回答欄Bは1・2のどちらかに○をつけてください。)

現在の利用状況については、「⑥移動支援」の割合が0.7%と最も高くなっています。

今後の利用希望については、「③行動援護」の割合が18.2%と最も高く、次いで「①居宅介護(ホームヘルプ)」の割合が16.8%、「⑥移動支援」の割合が13.1%となっています。

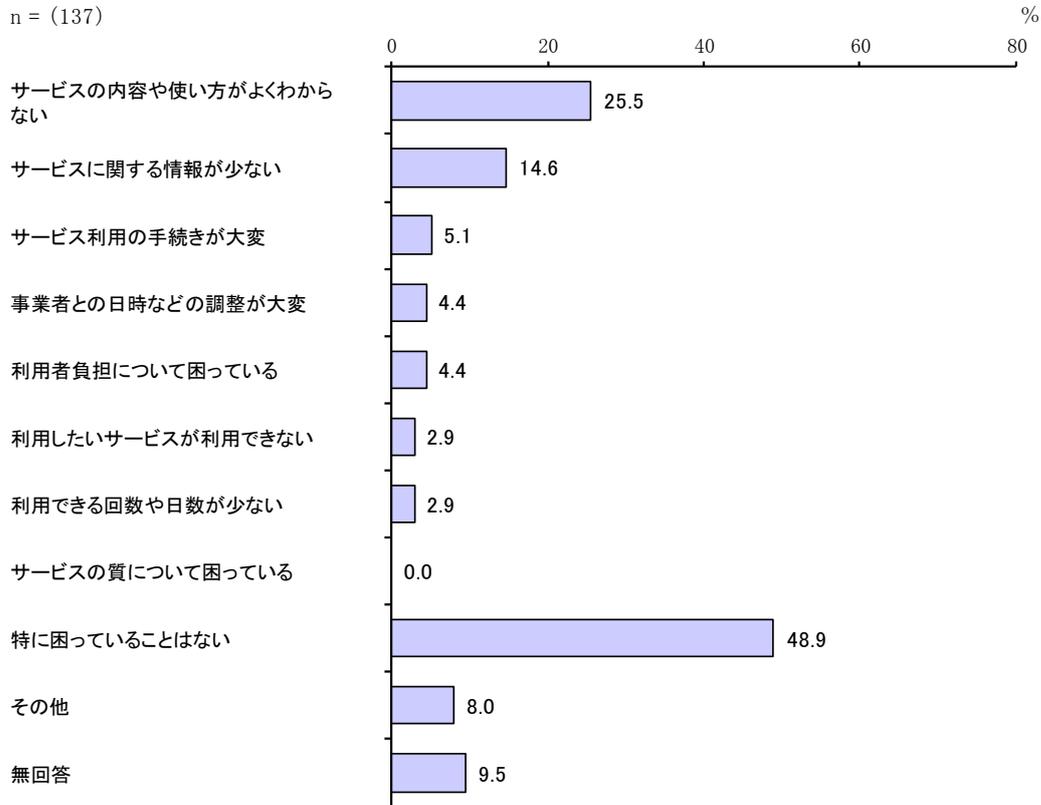


※令和元年度調査の「⑥移動支援」、「⑦訪問入浴」は平成28年度調査では、問74に含まれていた選択肢です。

問 69 あなたは、訪問系サービスの利用に関して困っていることがありますか。
(○はいくつでも)

「特に困っていることはない」の割合が48.9%と最も高く、次いで「サービスの内容や使い方がよくわからない」の割合が25.5%、「サービスに関する情報が少ない」の割合が14.6%となっています。

n = (137)

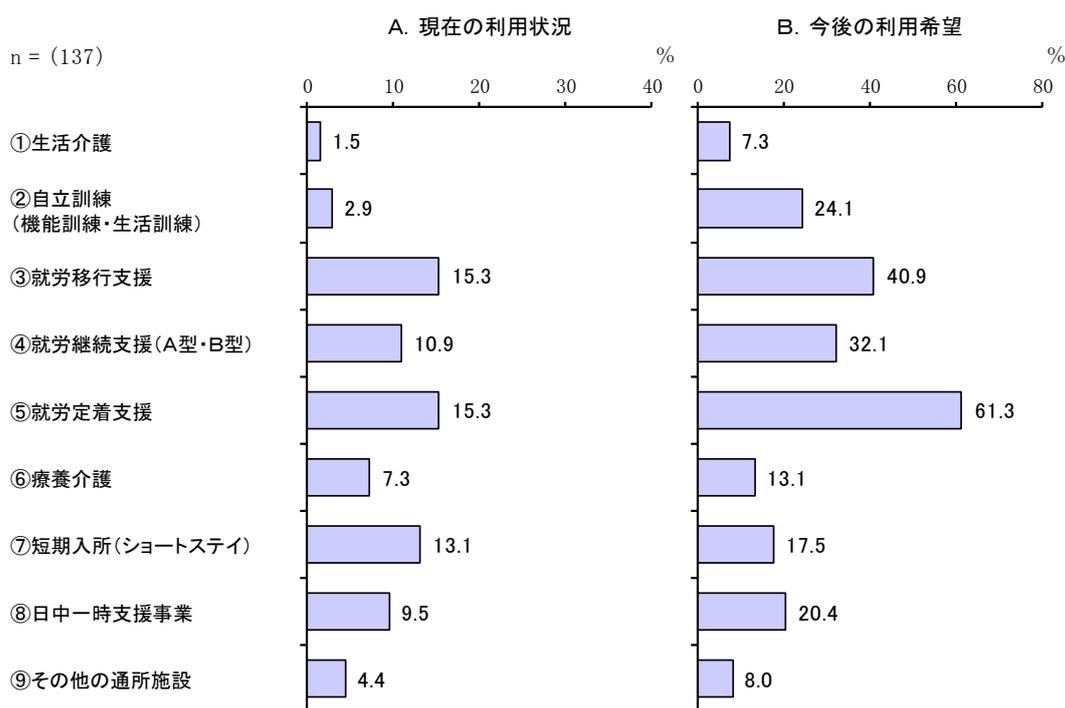


問 70 あなたは、次のような日中活動系サービスを利用していますか。また今後利用したいと思いますか。すでに利用している方も、今後利用したいかどうかをお答えください。

(①～⑨のそれぞれのサービスについて、回答欄Aは1・2のどちらか、回答欄Bは1・2のどちらかに○をつけてください。)

現在の利用状況については「③就労移行支援」、「⑤就労定着支援」の割合が 15.3%と最も高く、次いで「⑦短期入所（ショートステイ）」の割合が 13.1%となっています。

今後の利用希望については、「⑤就労定着支援」の割合が 61.3%と最も高く、次いで「③就労移行支援」の割合が 40.9%、「④就労継続支援（A型・B型）」の割合が 32.1%となっています。

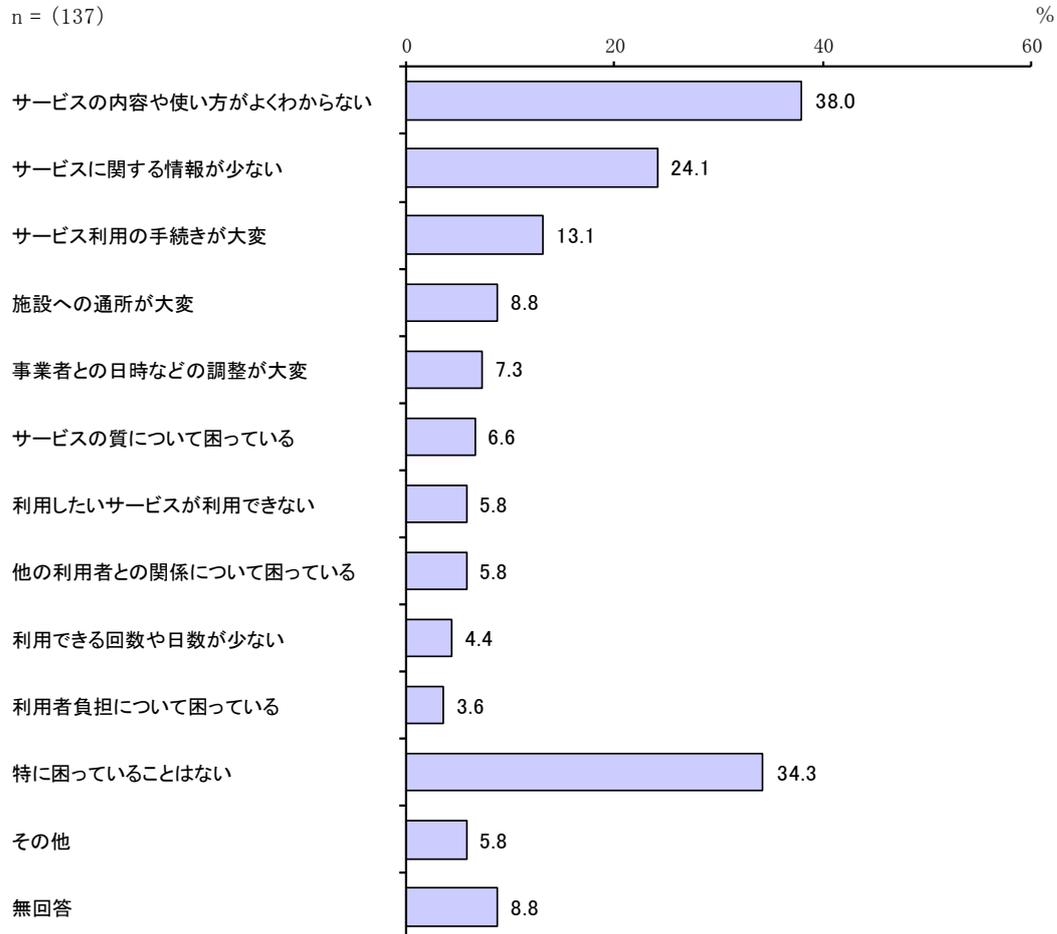


※令和元年度調査の「⑤就労定着支援」は新たに追加された選択肢です。

「⑧日中一時支援事業」は平成 28 年度調査では、問 74 に含まれていた選択肢です。

問 71 あなたは、日中活動系サービスの利用に関して困っていることがありますか。
(〇はいくつでも)

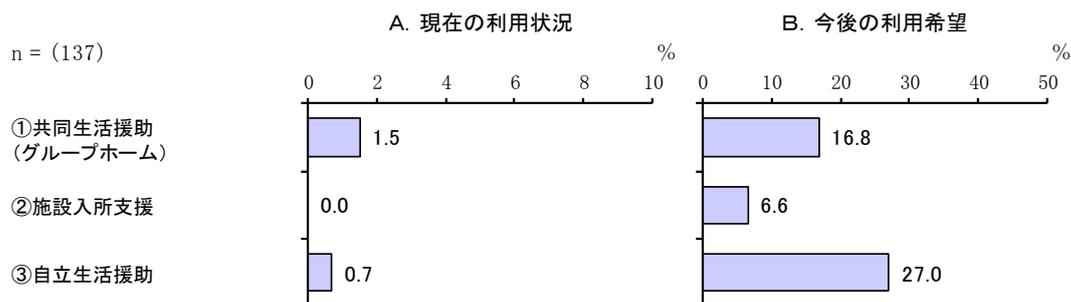
「サービスの内容や使い方がよくわからない」の割合が38.0%と最も高く、次いで「特に困っていることはない」の割合が34.3%、「サービスに関する情報が少ない」の割合が24.1%となっています。



問 72 あなたは、次のような居住系サービスを利用していますか。また今後利用したいと思いませんか。すでに利用している方も、今後利用したいかどうかをお答えください。(①～③のそれぞれのサービスについて、回答欄Aは1・2のどちらか、回答欄Bは1・2のどちらかに○をつけてください。)

現在の利用状況については、「①共同生活援助（グループホーム）」の割合が1.5%と最も高くなっています。

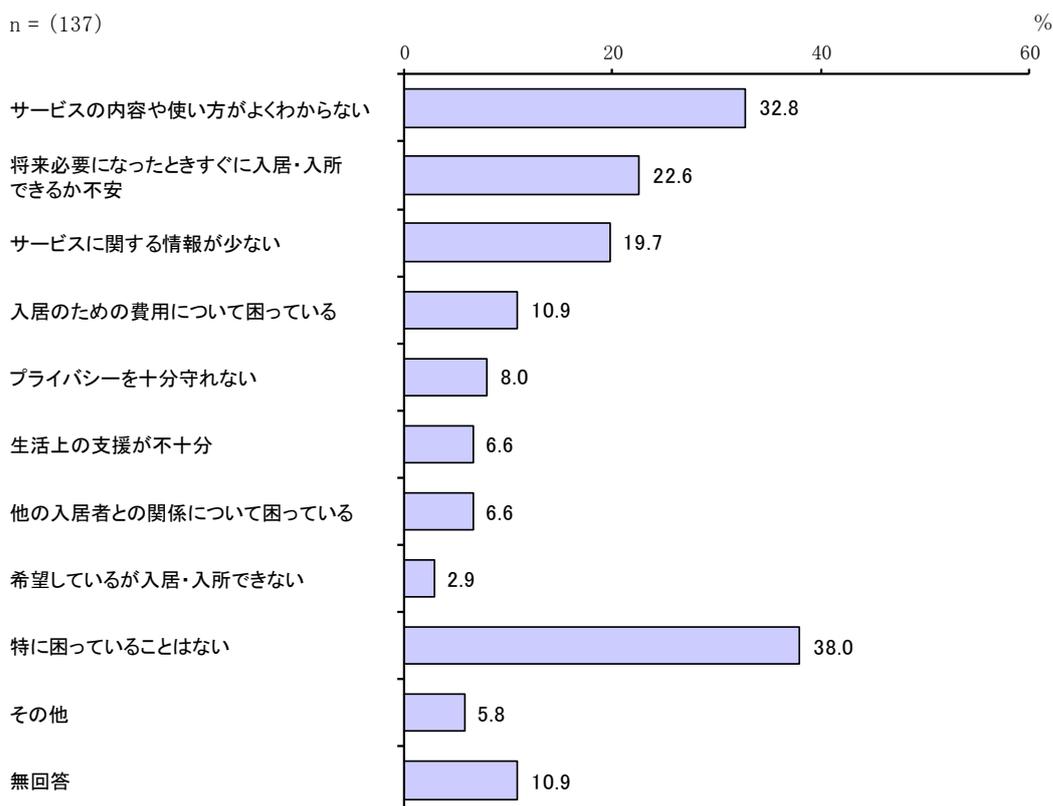
今後の利用希望については、「③自立生活援助」の割合が27.0%と最も高く、次いで「①共同生活援助（グループホーム）」の割合が16.8%となっています。



※令和元年度調査の「③自立生活援助」は新たに追加された選択肢です。

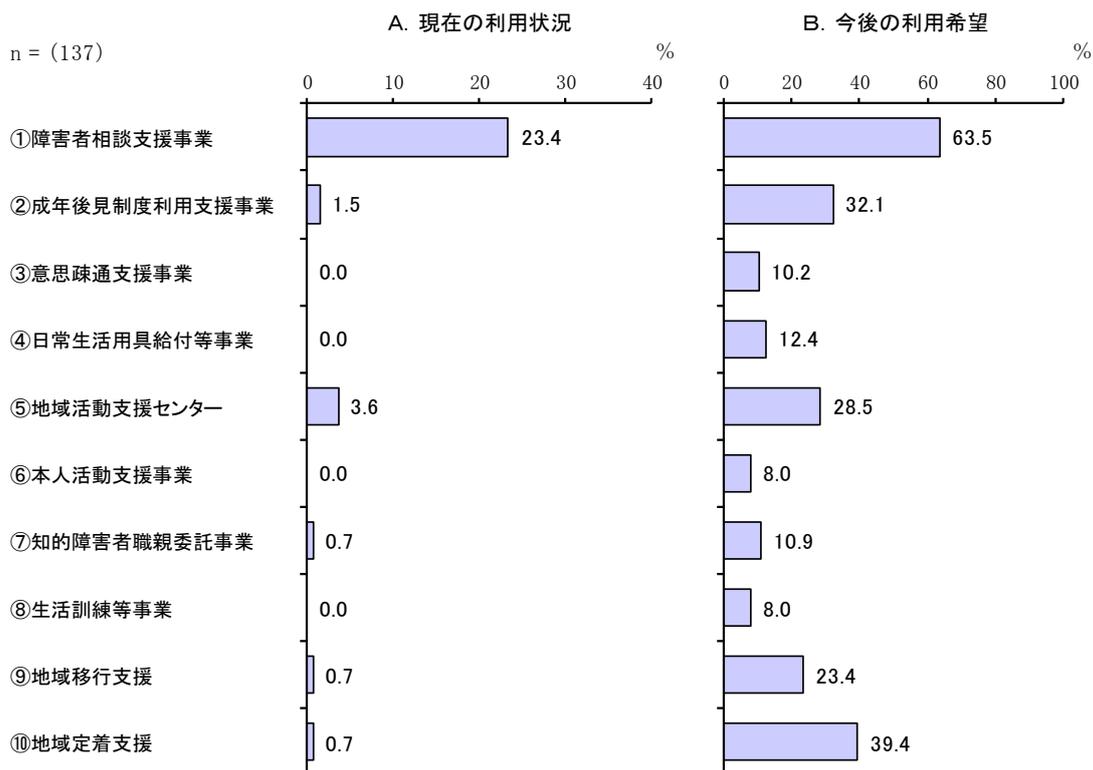
問 73 あなたは、居住系サービスの利用に関して困っていることがありますか。(○はいくつでも)

「特に困っていることはない」の割合が38.0%と最も高く、次いで「サービスの内容や使い方がよくわからない」の割合が32.8%、「将来必要になったときすぐに入居・入所できるか不安」の割合が22.6%となっています。



問 74 あなたは、次のようなサービスを利用していますか。また今後利用したいと思いませんか。すでに利用している方も、今後利用したいかどうかをお答えください。
 (①～⑩のそれぞれのサービスについて、回答欄Aは1・2のどちらか、回答欄Bは1・2のどちらかに○をつけてください。)

現在の利用状況については「①障害者相談支援事業」の割合が23.4%と最も高くなっています。今後の利用希望については、「①障害者相談支援事業」の割合が63.5%と最も高く、次いで「⑩地域定着支援」の割合が39.4%、「②成年後見制度利用支援事業」の割合が32.1%となっています。



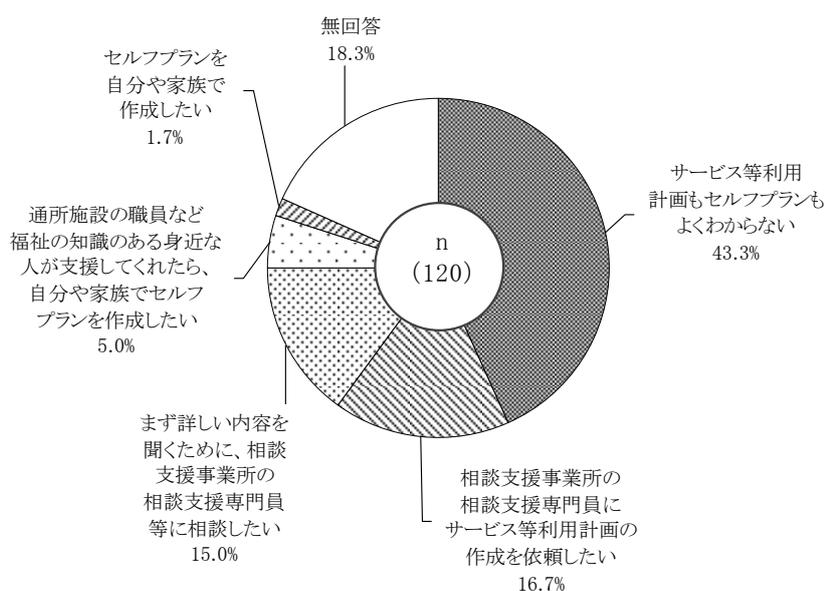
※令和元年度調査の「①障害者相談支援事業」は平成28年度調査では「①相談支援事業」でした。令和元年度調査の「⑨地域移行支援」、「⑩地域定着支援」は新たに追加された選択肢です。
 平成28年度調査の「⑤移動支援事業」、「⑧訪問入浴サービス事業」、「⑪日中一時支援事業」は令和元年度調査では、それぞれ、問69及び問71に選択肢を移しました。

問 75 【問 68, 70, 72, 74 にある障害福祉サービスを利用している方や、今後利用を
したい方におたずねします。】

サービス等利用計画の作成について、どのように進めていきたいですか。

(○は1つ)

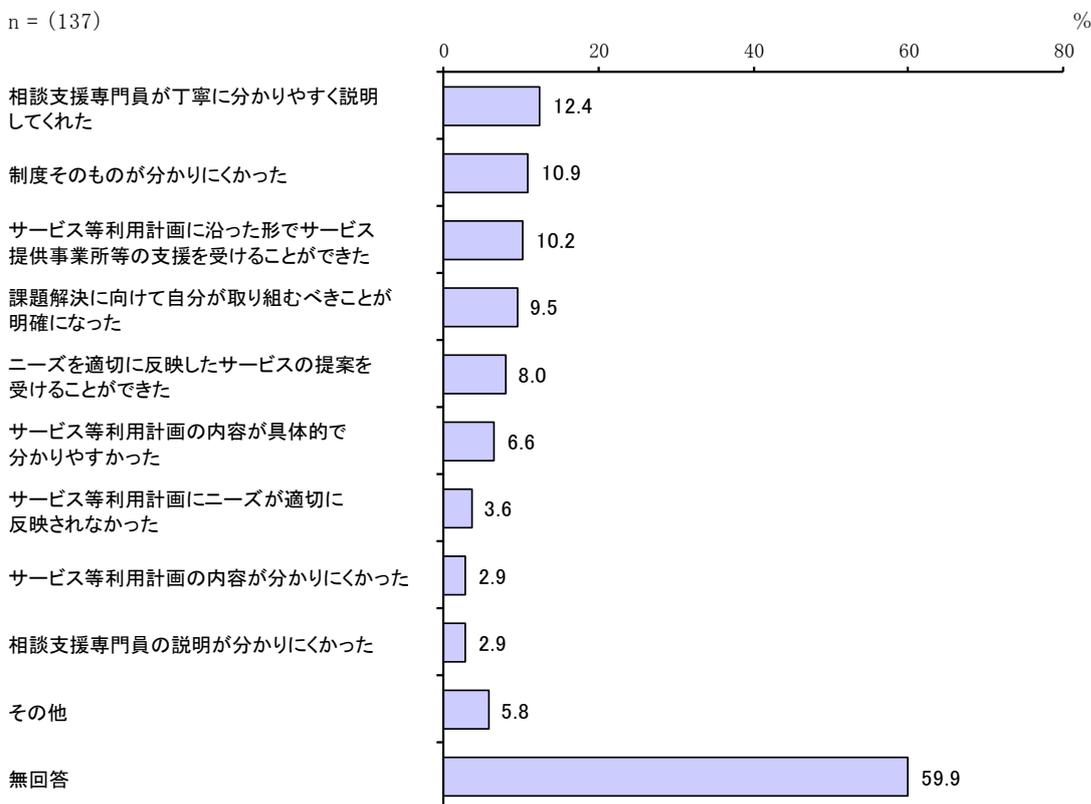
「サービス等利用計画もセルフプランもよくわからない」の割合が 43.3%と最も高く、次いで
「相談支援事業所の相談支援専門員にサービス等利用計画の作成を依頼したい」の割合が 16.7%、
「まず詳しい内容を聞くために、相談支援事業所の相談支援専門員等に相談したい」の割合が
15.0%となっています。



問 76 【これまでに相談支援事業所でサービス等利用計画を作成したことがある方におたずねします。】

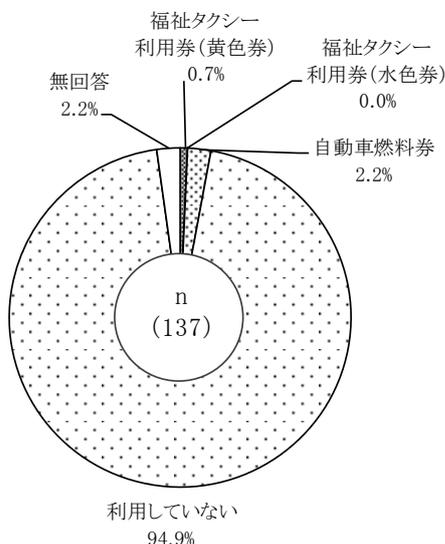
サービス等利用計画を作成して感じたことはありますか。(○は4つまで)

「相談支援専門員が丁寧に分かりやすく説明してくれた」の割合が12.4%と最も高く、次いで「制度そのものが分かりにくかった」の割合が10.9%、「サービス等利用計画に沿った形でサービス提供事業所等の支援を受けることができた」の割合が10.2%となっています。



問 77 あなたは、福祉タクシー利用券や自動車燃料券を利用していますか。利用している方は、その種類（券の色）もお答えください。(○は1つ)

「利用していない」の割合が94.9%と最も高くなっています。



問 78 【問 77 でいずれかの券を利用している（1～3番）と回答した方におたずねします。】

福祉タクシー利用券・自動車燃料券の主な使い道は何ですか。

（〇はいくつでも）

「医療機関への通院」が3件となっています。「福祉施設への通所」、「買い物など日常の用事」、「文化・教養活動」が1件となっています。

問 79 【問 77 で自動車燃料券を利用していると回答した方におたずねします。】

福祉タクシー利用券ではなく、自動車燃料券を選んでいる理由は何ですか。

（〇は1つ）

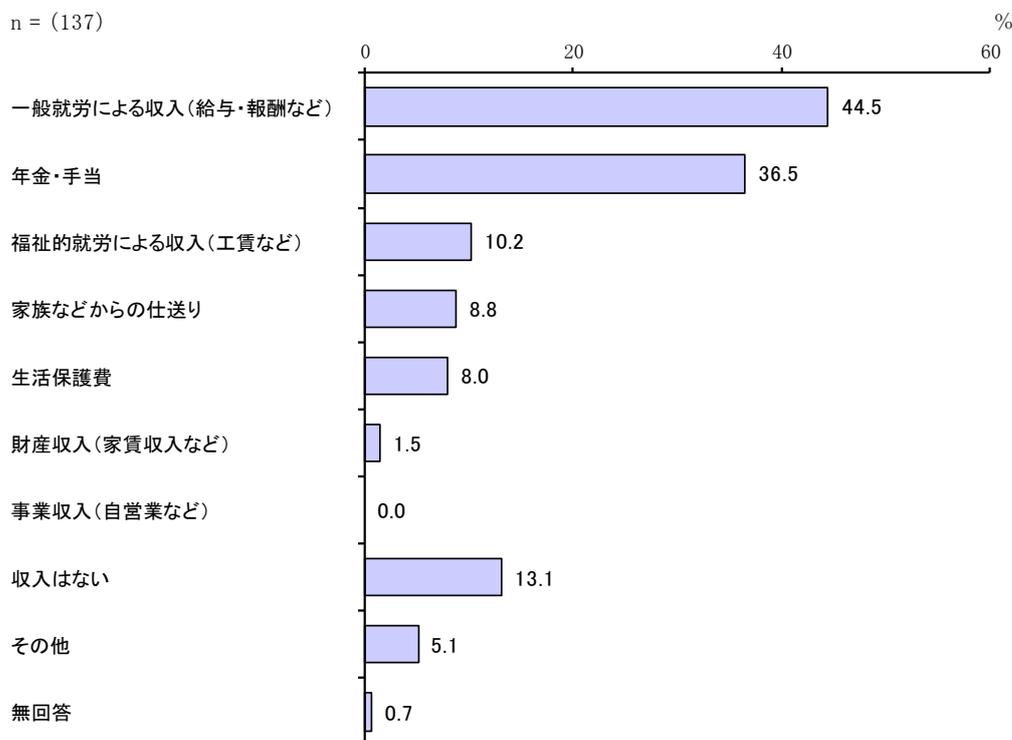
「家族などが運転する車で移動することが多いから」が3件となっています。

(14) 収入や利用者負担について

問 80 あなたご本人の主な収入源をお答えください。(〇は3つまで)

「一般就労による収入（給与・報酬など）」の割合が 44.5%と最も高く、次いで「年金・手当」の割合が 36.5%、「収入はない」の割合が 13.1%となっています。

平成 28 年度調査と比較すると、「一般就労による収入（給与・報酬など）」の割合が増加し、「収入はない」の割合が減少しています。



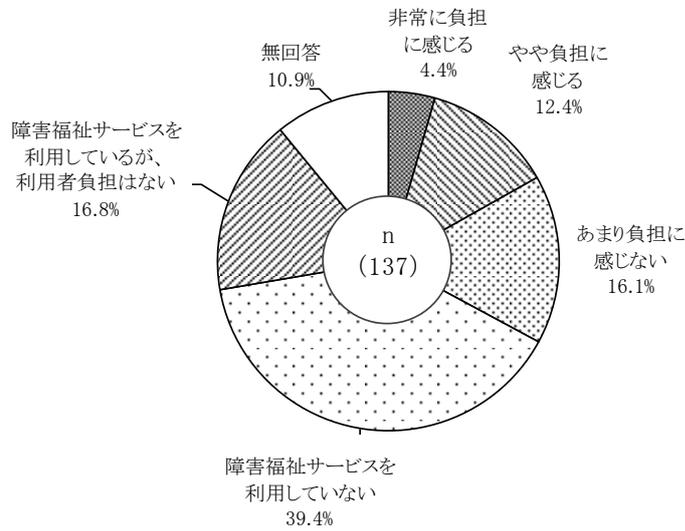
【平成 28 年度調査】

単位: %

	調査数	一般就労による収入(給与・報酬など)	年金・手当	福祉的就労による収入(工賃など)	家族などからの仕送り	生活保護費	財産収入(家賃収入など)	事業収入(自営業など)	収入はない	その他	無回答
全体	120	31.7	39.2	6.7	10.8	5.8	1.7	0.8	19.2	7.5	2.5

問 81 あなた（保護者の方）は、障害福祉サービスの利用者負担について、どのように感じていますか。（○は1つ）

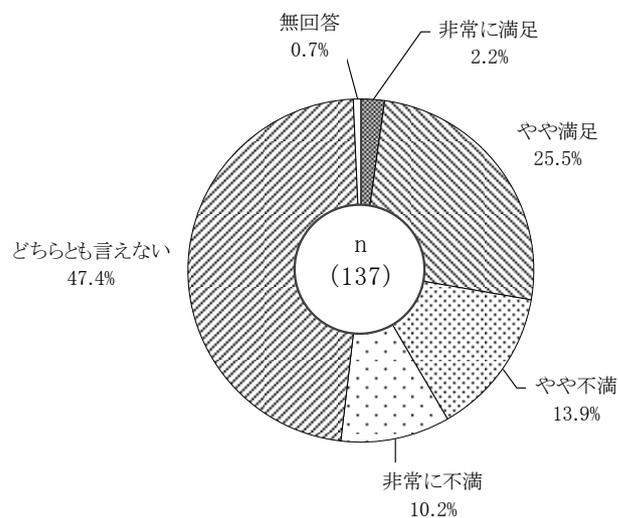
「障害福祉サービスを利用していない」の割合が 39.4%と最も高く、次いで「障害福祉サービスを利用しているが、利用者負担はない」の割合が 16.8%、「あまり負担に感じない」の割合が 16.1%となっています。



(15) 障害者施策について

問 82 あなた（や保護者・ご家族の方）は、市の障害者施策について、どのように感じていますか。（○は1つ）

「非常に満足」と「やや満足」をあわせた“満足”の割合が 27.7%、「やや不満」と「非常に不満」をあわせた“不満”の割合が 24.1%、「どちらとも言えない」の割合が 47.4%となっています。



(16) 自由意見

問 83 障害福祉に関するご意見やご要望、今後利用したい福祉サービスなどありましたら、ご自由にお書きください。

全部で 71 件の意見がありました。

	分類	件数	割合(%)
1	福祉サービス	15	21.1
2	医療・健康	0	0.0
3	生活環境	5	7.0
4	雇用・就労	14	19.7
5	将来について	2	2.8
6	経済事情・経済的支援	4	5.6
7	行政・制度	14	19.7
8	その他	17	23.9
合計		71	100.0

◆意見の概要 ※紙幅の都合により、内容を要約・抜粋している場合があります。

①福祉サービス

意見	最新の診断名	年齢	性別	回答者
福祉サービスは現在利用されていないが、今後の状況次第で利用を考える。	自閉症スペクトラム障害 アスペルガー症候群 注意欠陥・多動性障害	30 歳代	男性	本人
どのような福祉サービスがあり、どのように利用できるのか、わかりやすく情報を提供してほしい。同じ障害を持った家族の会があったら紹介してほしい。同じ障害を持った人たちが気軽に寄れるような場所があったら、地図等でわかりやすく教えてほしい。	自閉症スペクトラム障害 アスペルガー症候群 注意欠陥・多動性障害	30 歳代	男性	本人
福祉サービスの殆どを知らなかった。周知徹底されていない気がする。周囲に発達障害が理解されていない。基本的に災害時に音や光に対する過敏が酷い。基本的に人間がたくさんいるところが嫌いなので、避難所はとても無理です。健常者でさえ災害時・非常時大変なのに、わがままなこと（要望とか）はとても言えない。	自閉症スペクトラム障害 広汎性発達障害 アスペルガー症候群	30 歳代	男性	本人
区役所の説明がわかりづらい。 どんなサービスがあるのか全くわからない。	広汎性発達障害	20 歳代	男性	本人

意見	最新の診断名	年齢	性別	回答者
<ul style="list-style-type: none"> ・手帳のスマホアプリ化。 ・自分がどの支援やサービスを受けられるか、わかりやすくしてほしい（特に民間企業の割引やサービス、支援がわかりにくい）。 	アスペルガー症候群	40歳代	女性	本人
<ul style="list-style-type: none"> ・障害者に対する理解などが全体的にされていない。 ・福祉サービスも自分で調べないといけない。市から「こういうサービスがある」と言ってほしいし、市政だよりなどでアピールしてほしい。 	広汎性発達障害	20歳代	男性	本人
ひきこもりがちな障害者の話し相手や見守り、その他生活支援をしてくれるサービスがあればよい。	自閉症スペクトラム障害 注意欠陥・多動性障害	20歳代	男性	家族
障害者－障害者や障害者－健常者との出合の場ほどではないが、相互理解を深めていけるサービスがあればよい。どういった福祉サービスがあるのか、一覧表やリストで配布、もしくはインターネットでわかりやすく公開してほしい（すべてのジャンル問わず受けられる条件や利用料金など見られるもの）	自閉症スペクトラム障害	40歳代	女性	本人
日常の生活を安定させることで精一杯です。社会とのつながりをどう確保するか。利用しやすいサービスがあれば情報提供をお願いします。	自閉症スペクトラム障害	40歳代	女性	本人
障害認定されない程度の難聴だが福祉装具を利用したい。繊維筋痛症の理解が広まり、もう少しサービスをうけたい。移動がづらい。	広汎性発達障害	30歳代	男性	本人
自分が利用したいものでは、不可能なものでもよいなら、安楽死サービスか障害を治すサービス、政治関係の職場体験もしくは試用サービスぐらいか。自分の場合、社会の価値観に絶望的なレベルで適合できないことが不適應の理由なので参考にしづらいと思う。障害者、一般の方の両方に負担を大きくかけなくて済む福祉サービスの制度が一番よいと思う。	広汎性発達障害	30歳代	男性	本人
障害者向けの結婚相談所をつくってほしい	広汎性発達障害	40歳代	女性	本人
睡眠障害（ナルコレプシー）の方の支援	広汎性発達障害	20歳代	女性	本人
一般の方には障害当事者の話しを聞く機会が少ないようです。講演などを増やしていくことが、相互理解につながると思います。	広汎性発達障害	20歳代	女性	本人

②生活環境について

意見	最新の診断名	年齢	性別	回答者
発達障害の人は多い。しかし、どのサービスからも落ちている。コミュニケーション能力に乏しい者は、家族がいなくなった後に生きるとはとても難しい。何かあった時の対処法がわからないし、一人で生活できるレベルではない。そういう人たちも救ってくれる施設がほしい。	広汎性発達障害	30歳代	男性	本人
ひとり暮らしの障害者用の住居をつくってください。発達障害者は感覚過敏とコミュニケーション障害があるため、一般人に混じってひとりで暮らすのは非常に困難です。全員障害者の住居があればとても安心して心強いです。	自閉症・自閉的傾向 広汎性発達障害 注意欠陥・多動性障害 その他	20歳代	男性	不明
愛犬と住める家を貸してくれればよい。私は犬がいないと生きていけないのに、犬＝お金を持っている、ぜいたくするなという考えに嫌気がさす。	広汎性発達障害	20歳代	男性	家族
親が年をとった後（仕事を退職した後）時、または生活が別になった時の子ども（障害者）の収入や生活の面での補助の必要性。	広汎性発達障害	20歳代	男性	家族
スーパーでの買い物では、セルフレジをもっと入れてほしい。コミュニケーションの配慮のため。	自閉症スペクトラム障害 注意欠陥・多動性障害 その他	20歳代	女性	本人

③雇用・労働について

意見	最新の診断名	年齢	性別	回答者
仕事が見つからない。自分が死んだ後どうなるか、いつホームレスになるか、毎日おびえて暮らしています。働けたとしてもすぐクビになりそうで怖い。職場での差別は無くなったことはありません。生きていくことすべてに不安です。	アスペルガー症候群	30歳代	男性	本人
就労支援の充実。自宅でできる仕事を増やしてほしい。	アスペルガー症候群 注意欠陥・多動性障害 学習障害	40歳代	男性	不明
<ul style="list-style-type: none"> 千葉県内での障害者就労の収入が少ない。 時給ならあと500円～1000円は増やしてほしい もっと障害者に対して優しい市であってほしい。 	アスペルガー症候群 注意欠陥・多動性障害 学習障害	40歳代	男性	不明
障害とはできないことではなく、できないことが認められないことだと考えています。サービスの充実も大事ですが、職場において、障害者が活躍できる場がどれだけあるのでしょうか。まずは役所や学校自身が障害者を活躍させているところを見せてほしいです。それがサービスの充実の第一歩のはずです。	自閉症スペクトラム障害	20歳代	男性	本人

意見	最新の診断名	年齢	性別	回答者
発達障害者支援センターを利用したことはあるが、職員の対応がすごく嫌だった。センター長が説明もそこそこに話を進めて、発達障害がなめられてる感じがした。支援センターとハローワークの人は頼れない。テストまでやったけど、就労まで支援してもらうのは違うと思った。給与が出る形で体験型バイトがあればよい。スポットで1日体験できる、派遣型でもよいから1日働いて日払いがあれば生活が助かる。市が金銭面で支援してほしい。働く意欲はあっても人間関係をすぐダメにしてしまう。もっと助けてほしい。	広汎性発達障害 注意欠陥・多動性障害	30歳代	男性	不明
30歳目前でやっと社会人一年目。にもかかわらず、事務職に向いておらず、しかも保健師、事務員が自分の目の前で聞こえるように毎回陰口を叩いてきて、正直参っています。かといって、辞めても30で職歴の無い人間を雇ってくれるところはほとんどないのが実状なので、かなりしんどいです。一度ルールを外れた障害者であっても、まともに食べていけるような訓練制度や職業仲介制度がほしいです。	自閉症スペクトラム障害	30歳代	男性	本人
作業の現場において、不自由さ、大変さが目視できないと、障害だと理解されないのが現状です。さもないと、「守られている」と、次第にぞんざいに振舞われ、暴言、陰口、挙句に足蹴にされたこともあり大変失望しました。祭典祝典等で我々への関心が注がれるので、どうか穏やかで、かつ疎かに扱われることのない、恒常的なしくみの構築を希望します。	広汎性発達障害	20歳代	男性	本人
一昨年ほどから自治体の障害雇用率算定に関する問題がクローズアップされ、各地で臨時的試験・採用活動が行われたことは承知している。しかし、その後採用された障害者が働き続けているのかどうか。本人や現場の声といった事後的な検証・報告は市・県民だよりをみても載っていない。民間企業での障害者離職率や退職理由はおおむね社会にデータとして広まっている。自治体もプライバシーに配慮する範囲内でこれらの情報を公表し、反省・還元してほしい。	高機能自閉症・高機能広汎性発達障害 自閉症スペクトラム障害 広汎性発達障害 アスペルガー症候群 注意欠陥・多動性障害 学習障害	30歳代	女性	本人
働きやすい職場で仕事がしたい。今の職場ではメンタルがもたない。話がしたいと言っても聞く耳を持たない。	広汎性発達障害 アスペルガー症候群	40歳代	男性	本人
もっと就職しやすい環境をつくってほしいです。	広汎性発達障害	40歳代	男性	本人
一般企業で正社員として働いています。そのため平日の日中は時間が取れず、行政や福祉の手続きには会社を休んで対応しています。会社に半休制度などがあれば、もう少し支援制度の利用がしやすくなります。	自閉症スペクトラム障害 広汎性発達障害 アスペルガー症候群 注意欠陥・多動性障害 学習障害	20歳代	女性	本人

意見	最新の診断名	年齢	性別	回答者
学校や職場などで集団行動する際、障害のない人にも発達障害の特性を理解してもらいたい。ハローワークの専門援助部門をもっと宣伝してほしい。	自閉症スペクトラム障害 広汎性発達障害 アスペルガー症候群 注意欠陥・多動性障害 学習障害	20歳代	女性	本人
就労支援に関する施設をもう少し充実させて、社会人として生活できるようになるまでしっかりサポートしてほしい。障害者が社会人として参加できる機会が増えることを期待します。	自閉症・自閉的傾向	50歳代	女性	家族
千葉障害者就業支援キャリアセンターとのつながりの中で、ワークキャリアの大切さを感じています。また、千葉市発達障害者支援センターとのつながりで、発達障害の知識を深める講演会に参加しています。	自閉症スペクトラム障害 注意欠陥・多動性障害 その他	30歳代	男性	本人

④将来について

意見	最新の診断名	年齢	性別	回答者
車の運転ができないため、田舎にある実家に帰れない。実家に戻ると「足」がなくなり、必然的に引きこもりになってしまう。今後も千葉市に住み続けたいが、障害者雇用のため給料が安く、生活が厳しい。貯蓄もなかなか増えないので、将来の生活に不安がある。	広汎性発達障害、知的障害	18歳・19歳	男性	不明
今、特に困っていることはありませんが、両親亡き後の生活が不安です。兄弟だからといってすべての責任を負わせるのは心配です。安心して任せられることができたらしらと思っています。	広汎性発達障害、知的障害	18歳・19歳	男性	不明

⑤経済事情・経済的支援について

意見	最新の診断名	年齢	性別	回答者
経済的不安が将来にわたって大きいです。	自閉症スペクトラム障害、広汎性発達障害、注意欠陥・多動性障害	20歳代	男性	本人
一般就労している障害者への経済的支援が全くないため、一般就労しても自立できない。障害年金も審査が非常に厳しく、就労できるといだけない。月の手取りが12～13万なのに、初診時に働いていたから年金は出せないのでは、自立は不可能です。年収に応じて経済的支援をしてもらえるシステムはつくれないでしょうか。	広汎性発達障害	20歳代	男性	本人

意見	最新の診断名	年齢	性別	回答者
近々経済的に生活が苦しくなりますが打開の目途が立たず不安です。障害年金や自己破産、生活保護等について相談できる場所があれば助けてほしいですが、どこに行けばよいのかわからず、仕事も休みが多くなく体力的にも余裕がないため具体的な活動を進められず困っています。	注意欠陥・多動性障害	20歳代	男性	本人
ともかくお金がない。障害の重さから体を動かすことへのハンデを理解しつつ、新しい生き方や幸せを追い求めて不断の努力をしているが、お金の少なさと障害の重さが足かせになっており、チャンスの追求や生活に支障がある。最低1か月10～15万がないと自立は無理。1月あたり20万円が望ましい。	広汎性発達障害	40歳代	男性	本人

⑥行政・制度について

意見	最新の診断名	年齢	性別	回答者
交通系の割引サービスを利用する際に障害者手帳を提示するのは少々気後れするので、別途パスカードを発行してもらうなど配慮がほしい。現在の交通系サービスはバスが中心なので、鉄道系サービスも割引等の対象に含めてほしい。	自閉症スペクトラム障害	20歳代	男性	家族
身体障害者や老人を基準につくられたサービスで、精神障害者や若い人が利用しやすい環境にない。手当ても垣根を低くして、もっと補助してほしい。精神的、金銭的負担の苦痛を家族が味わっていることの理解を深めてほしい。	アスペルガー症候群 学習障害	30歳代	女性	本人
区役所などの職員の対応が塩対応で障害者に寄りそっていない。市や区の職員から障害者への理解を深めてほしい。	自閉症・自閉的傾向 アスペルガー症候群 学習障害 その他	20歳代	男性	本人
軽度発達障害者に対する自立支援や雇用促進を充実させてほしい。自分はグレーゾーンで3級のため、受けられる支援に限りがあり、対象にならないことが多くあります。特に金銭面での自立ができるサービスや支援を望みます。	広汎性発達障害	40歳代	男性	本人
私は大人になってから発達障害だと気づきました。幼稚園や小学校の時に気づいていたらかなり違っていたと思います。海外では、知識のある人が学校に訪問し、判断してバックアップする制度もあると聞きます。日本でも幼少期に支援する体制があれば、子どもにはよいと思います。	自閉症・自閉的傾向 自閉症スペクトラム障害 その他	30歳代	男性	本人

意見	最新の診断名	年齢	性別	回答者
就労継続B型にいたとき、患者会の有力者が入所したとたんに体制が変わり、精神は追い出され、知的の作業所になったことがある。しっかり監督してほしい。ハローワークの求人も本当の実態を載せてほしい。補助金目当てでは困る。	高機能自閉症・高機能 広汎性発達障害 自閉症スペクトラム障害 アスペルガー症候群 注意欠陥・多動性障害 学習障害	20歳代	女性	本人
要望したいことは知的、精神障害に対してのより一層の理解です。知名度は上がったかもしれませんが、細やかに深く理解することは当事者でも難しいです。生保受給者のためにボランティア等役に立てる所があればよいと思っています。現在はB型就労をやっていますが、一般就労未満のやれる事を探せる所があればよいと思っています。精神を病み、一度自信を失うと、引き込もってしまいます。個人の特性を福祉にわかってほしいです。	広汎性発達障害	20歳代	男性	本人
障害年金の申請手続きの簡素化、受給基準の緩和。	知的障害	40歳代	女性	本人
障害が発達障害だと受けられる支援がないように思います。知的障害がないため、障害程度は低いと思われがちですが、実際には就労も難しいため、就労移行支援や働けるまでの金銭的な支援期間を延長してほしいと思います。	注意欠陥・多動性障害 その他	30歳代	男性	本人
今後の学校教育がインクルーシブ教育をどうしても推進せざるを得ないなら、せめて今後の学校教育はエリート教育至上主義、中心主義からいい加減脱却すべきです。エリート教育はあくまで極めて高度な専門教育としてあるべきです。インクルーシブ教育がどれだけ充実しても、それと並行する形で特別支援教育は存置され続けるべきですし、さらに充実するべきです。	広汎性発達障害	18歳・ 19歳	男性	本人
細かい説明がほしい（目的地への行き方や物事の手順、電車やバスの行き先）。	自閉症スペクトラム障害 アスペルガー症候群	20歳代	女性	家族
普通の人が障害者に協力してほしいことをわかりやすく伝えてほしい（暗黙のルール、空気をよむことが苦手）	自閉症スペクトラム障害	20歳代	男性	本人
障害手帳の更hands続きに不便を感じています。 1. かかりつけ医に診断書も書いてもらわないとならない。 2. 家の所得税が関係していて、確定申告を済ませていないいけない（機能不全家族にはものすごく大変な事です）。 3. 就労していると手続き等に時間をとるのが大変。	広汎性発達障害 注意欠陥・多動性障害	30歳代	女性	本人

⑦その他

意見	最新の診断名	年齢	性別	回答者
就労継続している障害者達の手記（障害名、トラブルと解決までの過程）、障害者達の日常考えていることの手記の掲示。	自閉症スペクトラム障害 アスペルガー症候群 注意欠陥・多動性障害	18歳・ 19歳	男性	本人
発達障害は身体障害のようにわかりやすい障害でもなく、理解度がまだまだ低いと感じる。	アスペルガー症候群	30歳代	男性	本人
<ul style="list-style-type: none"> ・「肉体的障害」については「医療技術」の具体的開発でほとんど解決できる。それには大がかりな中・長期的な経済的支援による「包括的解決策」、遺伝子工学、生体工学的な「開発」が必ずいる。 ・「精神障害」については「肉体」を整えることによって九分九厘解決できる。その方には「東洋医療」の「内科」的療術の力が大きくものを言う。 ・「行政」は「制度」（心がけ）でなく「実」をとる（「障害者」をなくす）ことに金を出してほしい。 	アスペルガー症候群	40歳代	男性	本人
オリンピックは身体の一部が不自由な人と、心身ともに健康な人のためのものです。心の病気がある人や発達障害の人、精神障害者にとっては必要のないものです。とても辛いものです。「オリンピック」と聞いて嫌な思いをする人もいます。	広汎性発達障害	20歳代	男性	本人

意見	最新の診断名	年齢	性別	回答者
発達障害に対する理解がなさすぎる。精神障害とひとまとめにされることが多く、誤解やいじめが多すぎます。日本全体といってもいいほど、日本は障害に対する理解がなさすぎるどころか、SNSなどでさらしあげられるなど日に日に悪化しています。この世界への希望が見つかりません。	広汎性発達障害	40歳代	男性	不明
発達障害、統合失調症などがあります。世間の人たちには「変人」だとか「馬鹿だ」とか、見下げた目で見ないでほしいと思います。	広汎性発達障害	30歳代	男性	本人
相模原やまゆり園での事件があって以降（あるいはその以前）、弱者を排斥するかのような言説を国内で見聞きするにつけ絶望的になる。「障害福祉」だけで解決する問題ではないのだろうが、せめて最後まで「弱者」に寄り添う存在であってほしいと切に願う。	広汎性発達障害	30歳代	男性	本人
千葉県では福祉就労施設に通う手当が支給されありがたいと思います。	自閉症スペクトラム障害 アスペルガー症候群	40歳代	男性	本人
設問が身体・知的・重度の精神障害を前提としたものばかりで発達障害としての生きづらさがまったく理解されていないと感じました。ドナー登録した骨髄バンクから、HLA型が一致したと通知があり電話したら「通院してカウンセリングとか受けているからダメ」と言われました。今後10年間コーディネートしません、文句があるなら治った証明をしろと。発達障害は一生治らないものなのに。バンクのHP上に「発達障害はダメ」という情報はまったくありません。	アスペルガー症候群	30歳代	男性	本人